THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2015

22

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2015年度

2017　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2015

22

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2015年度

2017　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

2015年，熊本大学の歴史を語る興味深い発見があった．この年の４月から９月まで，大学本館（本部棟）の改修工事にかかわって事前の発掘調査を行った．大学本館は黒髪南地区にあるグレイの典雅な建物で，学長室，理事室，会議室ほか大学の中枢部署がはいっている．鉄筋コンクリート造り２階建，大正14年（1925）の建物である．

本館は建物としては二代目で，初代は熊本高等工業学校（熊本大学工学部の前身）の木造校舎であった．この校舎は明治41年（1908）に完成しており，現在の本館とほぼ同じ位置に建つ堂々たる建物であったが，大正11年（1922），出火により全焼してしまう．この翌年関東大震災が首都を襲い，防災への配慮から，その後日本の公共の建築物の主流は木造からコンクリート造りへと大きく変化した．再建された本館が鉄筋コンクリート造りであるのは，これを反映している．

今回埋蔵文化財調査センターが発掘調査したのは，本館１階階段横の部屋と中央南側，東西端の壁沿いの地である．１階の扉の下に露出した建物下の層には赤煉瓦を積んだ建物の基礎が現れ，その上を灰や木炭，ガラス片等を多く含んだ層が覆っていた．火事の生々しい痕跡である．この上に現在のコンクリート建物が建つのであるが，基礎の周りには壊れた煉瓦が乱雑に埋め込まれていた．この発見は学内外の関心を集め，現地説明会には150名の参加者があった．

発掘調査を担当した山野ケン陽次郎助教は，煉瓦の積まれ方を調べ，刻印からみた生産者，九州内の流通を追い始めた．その矢先，2016年４月の熊本地震で五高記念館の煙突が崩れ落ち，「熊本監獄製造」の刻印をもつ煉瓦がみつかった．煉瓦を廻る一連の調査成果は今年度の企画展『RENGA－遺跡から見えた近代－』で公開されている（2017年４月28日まで開催）．

2016年度も運営基盤管理部の施設担当をはじめとする関係部局の方々にお世話になった．あつく御礼申し上げる．

2017年３月
埋蔵文化財調査センター長
文学部教授　木　下　尚　子

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2015年４月１日から2016年３月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡群黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），医学部保健学科構内（KHJ），京町台遺跡群教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡群薬学部構内（HJP）．

4．調査地点配置図および遺構図の座標は，世界測地系による．

5．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．

6．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

7．本書の執筆は，序文および跋文を木下，Ⅰ章，英文サマリー・ハングルサマリー，付篇および抄録を松田が，Ⅱ章を松田・山野・吉留が行った．

8．本書の編集は松田が行い、吉留の協力を得た．

目　次

＜本文目次＞

第Ⅰ章　本年度の調査概要――1
第Ⅱ章　調査の記録――7
Ⅱ－1　黒髪北地区――7
1．(黒髪北)武道場等改修機械設備工事に伴う立会調査(1416)――7
2．(黒髪北)五高記念館前庭植栽除根業務に伴う立会調査(1501)――7
3．(黒髪北)北地区学生会館Ａ棟前舗装補修工事に伴う立会調査(1507)――10
4．(黒髪北)校舎(旧北地区食堂)改修工事に伴う立会調査(1508)――11
5．(黒髪南他)台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査(1510)――11
6．(黒髪北)人文社会科学喫煙所設置工事に伴う立会調査(1511)――12
7．(黒髪北)校舎(旧北地区食堂)改修機械設備工事に伴う立会調査(1514)――13
8．(黒髪北)北地区学生会館中庭インターロッキングブロック復旧工事に伴う立会調査(1515)――15
9．(黒髪北)黒髪北Ｅ１(全学教育棟)西側インターロッキングブロック復旧工事に伴う立会調査(1516)――16
10．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(黒髪)に伴う立会調査(1520)――17
11．(黒髪北)武夫原廻り(五高記念館側)フェンス復旧工事に伴う立会調査(1521)――20
12．(黒髪北)校舎(旧北地区食堂)改修工事(外構工事)に伴う立会調査(1524)――20
13．(黒髪北)総合研究棟(黒髪北Ｎ９)改修工事に伴う立会調査(1528)――22
14．(黒髪北)総合研究棟(黒髪北Ｎ９)改修電気設備工事に伴う立会調査(1529)――24
15．(黒髪北)総合研究棟(黒髪北Ｎ９)改修機械設備工事に伴う立会調査(1530)――25
Ⅱ－2　黒髪南地区――26
1．(黒髪南)本部樹木等撤去その他工事に伴う立会・発掘調査(1429)――26
2．(黒髪南)本部屋外スロープ取設工事に伴う立会・発掘調査(1430)――30
3．(黒髪南)本部エレベーター棟増築工事に伴う立会・発掘調査(1436)――32
4．(黒髪南)本部改修その他機械設備工事に伴う立会・発掘調査(1437)――34
5．(黒髪南)黒髪南Ｃ７　６階実験室電源その他工事に伴う立会調査(1506)――34
6．(黒髪南他)台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査(1510)――34
7．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(黒髪)に伴う立会調査(1520)――36
8．(黒髪南)Ｗ７排水設備改修工事に伴う立会調査(1523)――37
Ⅱ－3　本荘北地区――38
1．66kV 銀座橋熊大医学部線鉛被ＯＦケーブル改修工事に伴う立会調査(1423)――38
2．(本荘北)臨床研究棟新営その他工事(地下躯体撤去・擁壁設置)に伴う立会調査(1425)――40
3．(本荘北)臨床研究棟新営その他工事(本体工事)に伴う立会調査(1426)――41
4．(医病)管理棟改修その他工事(撤去)に伴う立会調査(1432)――41
5．(医病)管理棟改修その他工事に伴う立会調査(1442)――42
6．(本荘北)臨床研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査(1502)――43
7．(本荘北)臨床研究棟新営機械設備(その２)工事に伴う立会調査(1503)――44
8．(本荘北)臨床研究棟新営機械設備(その３)工事に伴う立会調査(1504)――45
9．(医病)管理棟改修機械設備工事に伴う立会調査(1505)――47
10．(本荘北)臨床研究棟新営仮設電柱建柱工事に伴う立会調査(1513)――49
11．(本荘北)屋外サイン取設工事に伴う立会調査(1518)――50
12．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(本荘北)に伴う立会調査(1527)――51

Ⅱ－4　本荘中地区 ——53
1．(本荘中他)屋外サイン取設工事に伴う立会調査(1519)——53
2．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事に伴う立会調査(本荘中他)（1525)——54
Ⅱ－5　本荘南地区 ——57
1．(本荘中他)屋外サイン取設工事に伴う立会調査(1519)——57
2．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(本荘中他)に伴う立会調査(1525)——59
3．(本荘南)駐車場拡張工事に伴う立会調査(1532)——60
Ⅱ－6　大江地区(薬学部)——62
1．(大江北)A棟北側屋外給水管修理工事に伴う立会調査(1509)——62
2．(黒髪南他)台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査(大江)（1512)——63
3．(黒髪北他)電力デマンド等計測システム(電気・水・ガス)取設工事(大江)に伴う立会調査(1522)——64
4．(大江北)蕃滋館東側埋設ガス管漏洩修理工事に伴う立会調査(1531)——65
Ⅱ－7　京町地区——67
1．(京町)教育学部附属小学校校舎新営その他工事(建築工事)に伴う発掘・立会調査(1417)——67
2．(京町)教育学部附属小学校校舎新営その他機械設備工事(その2)に伴う立会調査(1443)——67
3．(京町)教育学部附属教育実践総合センター東側プレハブ倉庫復旧工事に伴う立会調査(1526)——69
Ⅱ－8　宇留毛地区——70
1．(宇留毛)寄宿舎共通棟男子浴室等改修機械設備工事に伴う立会調査(1517)——70
第Ⅲ章　文化財活用活動の記録——71
1．地下と地上の文化財散歩——71
2．速報展「速報！遺跡の上の熊本大学2015」 71
3．1429他調査地点現地説明会 ——72
4．授業等への協力——72
5．来館者数——72
跋文——73
Summary ——74
付篇1——75
付篇2——78
付篇3——79
報告書抄録——81

＜図版目次＞

図1　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図(1/25000) ——2
図2　黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)——8
図3　黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)——9
図4　黒髪南地区における調査地点配置図(1/2000)——27
図5　本荘北地区における調査地点配置図(1/2000)——39
図6　本荘中・南地区における調査地点配置図(1/2000)——55
図7　大江地区(薬学部)における調査地点配置図(1/2000)——62
図8　京町地区における調査地点配置図——68
図9　2015年度来館者数の推移 ——72
図10「熊本大赤れんが校舎基礎発見」の新聞記事——79
図11「熊本大で出土お宝展示」の新聞記事 ——79

＜写真目次＞

写真1　6区南端遺構完掘状況(南より)——7
写真2　6区最下底面掘削状況(南より)——7
写真3　13区南管路掘削状況(南より) ——7
写真4　作業風景(南東より)——10
写真5　東側掘削状況(南東より)——10
写真6　中央掘削状況(北より)——10
写真7　作業風景(南西より)——10
写真8　北端掘削状況(南より)——10
写真9　南端掘削状況(南より)——10
写真10　作業風景(南より)——11
写真11　厨房地点作業風景(南東より)——11
写真12　厨房地点掘削状況(南東より)——11
写真13　食堂地点掘削状況(南西より)——11
写真14　№⑦作業風景(北西より)——12
写真15　№⑦掘削作業風景(南西より)——12
写真16　№⑦掘削状況(南西より)——12
写真17　作業風景(北より)——12
写真18　北東桝焼土検出状況(東より)——12
写真19　調査区掘削状況(東より)——13

写真20　東部作業風景(南東より)——13
写真21　東部南東隅掘削状況(東より)——14
写真22　東部中央域包含層検出状況(南より)——14
写真23　東部北東管路遺構確認状況(西より)——14
写真24　北部分岐管路交点西側掘削状況(東より)——14
写真25　北部中央管路掘削状況(東より)——14
写真26　北部玄関張出部北西管路掘削状況(北西より)——14
写真27　西部北半掘削状況(南より)——15
写真28　西部分岐部遺構確認状況(北東より)——15
写真29　南部排水管路掘削状況(北より)——15
写真30　作業風景(南東より)——15
写真31　包含層検出状況(南西より)——16
写真32　掘削状況(北より)——16
写真33　作業風景(南西より)——16
写真34　根釣り上げ状況(南より)——16
写真35　掘削状況(東より)——16
写真36　No.①作業風景(西より)——17
写真37　No.①東半掘削状況(南東より)——17
写真38　No.①西半掘削状況(東より)——17
写真39　No.②１区作業風景(北西より)——17
写真40　No.②１区掘削状況(西より)——17
写真41　No.②２区作業風景(南より)——17
写真42　No.②２区掘削状況(南より)——18
写真43　No.②３区掘削状況(南西より)——18
写真44　No.②４区掘削状況(東より)——18
写真45　No.③作業風景(西より)——18
写真46　No.③掘削終了(西より)——18
写真47　No.④作業風景(南西より)——18
写真48　No.④掘削状況(西より)——19
写真49　No.⑤作業風景(南より)——19
写真50　No.⑤掘削状況(東より)——19
写真51　No.⑥作業風景(南より)——19
写真52　No.⑥栗石検出状況(西より)——19
写真53　作業風景(北より)——20
写真54　No.７敷石検出状況(北より)——20
写真55　調査区掘削状況(北より)——20
写真56　北側玄関部分作業風景(北西より)——21
写真57　北側玄関部分掘削状況(北西より)——21
写真58　南側作業風景(西より)——21
写真59　南側側溝東半東端掘削状況(東より)——21
写真60　南側側溝東半掘削状況(南東より)——21
写真61　南側側溝西半遺構掘削状況(東より)——22
写真62　南側側溝西半遺構掘削状況(西より)——22
写真63　南側側溝西半西端遺構掘削状況(南より)——22
写真64　北側作業風景(北西より)——23
写真65　北側東半掘削状況(東より)——23
写真66　西側北半掘削状況(南より)——23
写真67　西側南半掘削状況(南より)——23
写真68　南側作業風景(南東より)——23
写真69　南側樹木No.１赤焼瓦検出状況(北より)——23
写真70　南側樹木No.４掘削状況(北より)——24
写真71　南側すきとり掘削状況(東より)——24
写真72　南側赤焼瓦基礎検出状況(北東より)——24
写真73　北側作業風景(北より)——24
写真74　北側掘削状況(北東より)——25
写真75　北側作業風景(北より)——25
写真76　北側東端掘削状況(西より)——25
写真77　北側西半掘削状況(東より)——25
写真78　南側作業風景(南西より)——25
写真79　南側掘削状況(東より)——26
写真80　Ⅰ区②北側赤焼瓦基礎検出状況(北西より)——28
写真81　Ⅰ区②南側基礎掘方埋土中破片検出状況(北より)——28
写真82　Ⅰ区②南側完掘状況(北より)——28
写真83　Ⅰ区②北側古代遺構完掘状況(南より)——28
写真84　Ⅳ区①炭灰混土検出状況(東より)——29
写真85　Ⅳ区①赤焼瓦基礎検出状況(南東より)——29
写真86　Ⅳ区①完掘状況(北より)——29
写真87　Ⅳ区①北側廊下部分完掘状況(西より)——29
写真88　Ⅳ区②赤焼瓦基礎検出状況(南より)——29
写真89　Ⅳ区②赤焼瓦基礎下栗石検出状況(東より)——29
写真90　Ⅳ区②近代遺構完掘状況(南より)——30
写真91　Ⅳ区②完掘状況(北より)——30
写真92　Ⅳ区②北側廊下部分完掘状況(東より)——30
写真93　Ⅳ区①南側古代遺構完掘状況(北西より)——30
写真94　Ⅲ区①重機掘削作業風景(北より)——31
写真95　Ⅲ区①北側壁面部分赤焼瓦基礎検出状況(東より)——31
写真96　Ⅲ区①南側壁面部分赤焼瓦基礎検出状況(東より)——31
写真97　Ⅲ区①独立赤焼瓦基礎検出状況(東より)——31
写真98　Ⅲ区①完掘状況(南より)——31
写真99　Ⅲ区①完掘状況(北より)——31
写真100　Ⅱ区⑨近代遺構検出状況（北より)——32

写真101　Ⅱ区⑫赤煉瓦基礎検出状況（南西より）——32
写真102　Ⅱ区⑨階段部分検出状況（西より）——32
写真103　Ⅱ区⑫灰炭混土出土遺物検出状況（南より）——32
写真104　Ⅱ区⑨独立赤煉瓦基礎検出状況（東より）——33
写真105　Ⅱ区⑨通し柱部分赤煉瓦基礎検出状況（南より）——33
写真106　Ⅱ区⑪コンクリート板基礎検出状況（南より）——33
写真107　Ⅱ区⑨近代遺構完掘状況（南より）——33
写真108　Ⅱ区⑨完掘状況（北より）——33
写真109　作業風景（南西より）——34
写真110　掘削状況（西より）——34
写真111　南東部掘削状況（南東より）——34
写真112　No.①～④調査区作業風景（南東より）——35
写真113　No.①掘削状況（南東より）——35
写真114　No.②掘削状況（南より）——35
写真115　No.③掘削状況（南より）——35
写真116　No.④掘削状況（南より）——35
写真117　No.⑤作業風景（南西より）——35
写真118　No.⑤掘削状況（南より）——36
写真119　No.⑥作業風景（西より）——36
写真120　No.⑥掘削状況（北より）——36
写真121　No.⑦作業風景（南西より）——36
写真122　No.⑦共用棟黒髪４西側掘削状況（南より）——36
写真123　No.⑦総合情報統括センター棟北側掘削状況（西より）——37
写真124　No.⑧作業風景（北西より）——37
写真125　No.⑧北半掘削状況（北より）——37
写真126　No.⑧南半掘削終了（南より）——37
写真127　作業風景（北西より）——37
写真128　トレンチ掘削状況（北より）——38
写真129　作業風景（南西より）——38
写真130　遺構検出状況（東より）——38
写真131　南北軸掘削状況（北より）——40
写真132　東西軸掘削状況（北東より）——40
写真133　作業風景（南より）——40
写真134　掘削状況（西より）——40
写真135　北辺包含層検出状況（南より）——41
写真136　作業風景（南西より）——41
写真137　掘削状況（北東より）——41
写真138　掘削状況（南より）——41
写真139　作業風景（南東より）——42
写真140　掘削状況（北より）——42
写真141　玄関部分作業風景（南東より）——42
写真142　玄関部分遺構確認状況（南より）——42
写真143　玄関部分溝完掘状況（南より）——42
写真144　玄関部分遺構完掘状況（南より）——43
写真145　東側スロープ部分掘削状況（西より）——43
写真146　西側スロープ部分掘削状況（南より）——43
写真147　階段部分掘削状況（西より）——43
写真148　作業風景（西より）——43
写真149　ハンドホール１掘削状況（西より）——44
写真150　ハンドホール２掘削状況（西より）——44
写真151　管路掘削状況（西より）——44
写真152　作業風景（南東より）——44
写真153　西側配管掘削状況（南より）——45
写真154　東側配管掘削状況（南より）——45
写真155　北西部作業風景（東より）——45
写真156　北西部Ｌ字状掘削部長辺掘削状況（西より）——45
写真157　北西部Ｌ字状掘削部遺構完掘状況（北より）——45
写真158　東部掘削作業風景（北より）——46
写真159　東部短辺建物基礎掘削状況（東より）——46
写真160　東部長辺遺構完掘状況（南より）——46
写真161　東部分岐部掘削状況（東より）——46
写真162　東部浄化槽南掘削部掘削状況（北より）——46
写真163　南東部作業風景（西より）——46
写真164　南東部遺構完掘状況（北より）——47
写真165　南東部コンクリート検出状況（西より）——47
写真166　南東部東端掘削状況（南より）——47
写真167　北東部作業風景（東より）——48
写真168　北東部掘削状況（南より）——48
写真169　北部掘削状況（東より）——48
写真170　南東部作業風景（南西より）——48
写真171　南東部東西トレンチ包含層検出状況（東より）——48
写真172　南東部南北トレンチ包含層検出状況（南より）——48
写真173　南東部南北トレンチ掘削状況（南より）——49
写真174　南西部作業風景（南西より）——49
写真175　南西部東側トレンチ包含層検出状況（北より）——49

写真176　南西部西側トレンチ掘削状況（南より）——49
写真177　作業風景（北より）——50
写真178　掘削状況（北より）——50
写真179　①地区作業風景（北東より）——50
写真180　①地区焼土層検出状況（北より）——50
写真181　①地区掘削状況（南より）——50
写真182　②地区作業風景（南東より）——51
写真183　②地区掘削状況（南西より）——51
写真184　③地区作業風景（南西より）——51
写真185　③地区掘削状況（東より）——51
写真186　No.①作業風景（西より）——51
写真187　No.①掘削状況（西より）——52
写真188　No.②作業風景（西より）——52
写真189　No.②掘削状況（南より）——52
写真190　No.③作業風景（北より）——52
写真191　No.③掘削状況（東より）——52
写真192　①地区作業風景（東より）——53
写真193　①地区掘削状況（東より）——53
写真194　②地区作業風景（東より）——53
写真195　②地区掘削状況（東より）——53
写真196　③地区作業風景（南西より）——53
写真197　③地区掘削状況（西より）——54
写真198　No.①－１作業風景（東より）——54
写真199　No.①－１掘削状況（南東より）——54
写真200　No.①－２作業風景（南より）——54
写真201　No.①－２掘削状況（南より）——54
写真202　No.①－３作業風景（南西より）——56
写真203　No.①－３掘削状況（南より）——56
写真204　No.①－４作業風景（西より）——56
写真205　No.①－４掘削状況（南より）——56
写真206　④地区作業風景（南東より）——57
写真207　④地区掘削状況（西より）——57
写真208　⑤地区作業風景（東より）——57
写真209　⑤地区掘削状況（東より）——57
写真210　⑥地区作業風景（北東より）——57
写真211　⑥地区掘削状況（南より）——58
写真212　⑦地区作業風景（北西より）——58
写真213　⑦地区掘削状況（北より）——58
写真214　⑧地区作業風景（北西より）——58
写真215　⑧地区掘削状況（東より）——58
写真216　⑨地区作業風景（西より）——58
写真217　⑨地区掘削状況（北より）——59
写真218　No.②作業風景（南西より）——59
写真219　No.②南北路掘削状況（北より）——59
写真220　No.③作業風景（南より）——59
写真221　No.③掘削状況（南より）——59
写真222　No.④作業風景（南西より）——60
写真223　No.④中央部掘削状況（南西より）——60
写真224　No.⑤作業風景（北より）——60
写真225　No.⑤掘削状況（南より）——60
写真226　No.①作業風景（南より）——61
写真227　No.①掘削状況（西より）——61
写真228　No.②・③作業風景（南西より）——61
写真229　No.②掘削状況（東より）——61
写真230　No.③掘削状況（西より）——61
写真231　No.③根除去状況（西より）——61
写真232　西・中央トレンチ作業風景（西より）——62
写真233　中央トレンチ掘削状況（西より）——62
写真234　西トレンチ掘削状況（西より）——63
写真235　東トレンチ掘削状況（北より）——63
写真236　作業風景（南西より）——63
写真237　クサギの木箇所掘削状況（南より）——63
写真238　サンシュユの木箇所掘削状況（東より）——63
写真239　No.①作業風景（西より）——64
写真240　No.①北側掘削状況（北より）——64
写真241　No.②作業風景（南より）——64
写真242　No.②北東部掘削状況（南より）——64
写真243　No.②東部掘削状況（南より）——65
写真244　No.②西部桝掘削状況（東より）——65
写真245　No.③作業風景（北より）——65
写真246　No.③道路下掘削状況（南東より）——65
写真247　作業風景（北西より）——66
写真248　北壁調査区断面（南より）——66
写真249　調査区掘削状況（西より）——66
写真250　アスファルト舗装部作業風景（南より）——67
写真251　アスファルト舗装部掘削状況（北より）——67
写真252　Ｂ棟北側作業風景（西より）——67
写真253　雨水枡掘削状況（西より）——67
写真254　調理室外周部東部掘削状況（南より）——68
写真255　校舎新築部西側硬化面検出状況（西より）——68
写真256　校舎新築部西側掘削状況（西より）——69
写真257　校舎新築部南側掘削終了（東より）——69
写真258　作業風景（南東より）——69
写真259　北東隅掘削状況（南より）——69
写真260　調査区掘削状況（南東より）——69

写真261　作業風景（北西より）――70
写真262　作業風景（東より）――70
写真263　掘削状況（西より）――70
写真264　「地下と地上の文化財散歩」（黒髪南地区）
実施状況 ――71
写真265　「地下と地上の文化財散歩」（本荘北地区）
実施状況 ――71
写真266　速報展 展示状況（全体）――71
写真267　速報展 展示状況（近世）――72
写真268　速報展 展示説明会実施状況 ――72
写真269　現地説明会 遺跡解説状況 ――72
写真270　現地説明会 遺物解説状況 ――72

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――１
表２　2015年度調査一覧――３

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は，表２のとおり，発掘調査５件，立会調査44件を実施した．発掘調査は全て立会調査から切り替わったものである．また前年度から継続して実施したものが12件含まれている．地区別に見ると，黒髪北・南地区22件，本荘北・中・南地区14件，大江地区４件，京町地区３件，宇留毛地区１件である．

本年度実施した主な発掘調査は，京町地区における教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）に伴う発掘調査（1417調査地点），黒髪南地区における本部樹木等撤去その他工事に伴う発掘調査（1429調査地点），本部屋外スロープ取設工事に伴う発掘調査（1430調査地点），本部エレベーター棟増築工事に伴う発掘調査（1436調査地点），本部改修その他機械設備工事に伴う発掘調査（1437調査地点）である．全て前年度から継続したものである．

このうち京町地区における教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）に伴う発掘調査（1417調査地点）は，前年度弥生時代後期の竪穴住居が検出された所である．調査終盤にかかった本年度は住居こそ見つからなかったものの，弥生時代の硬化面や遺物の出土は見られ，居住活動の一端が伺われた．本地区では当該調査地点の西側にあたる附属中学校のコンピューター棟（9405調査地点）や南校舎南調査区（0719調査地点）でも同時期の竪穴住居が確認されており，当地点の調査により集落が東に広がることが確認できた．

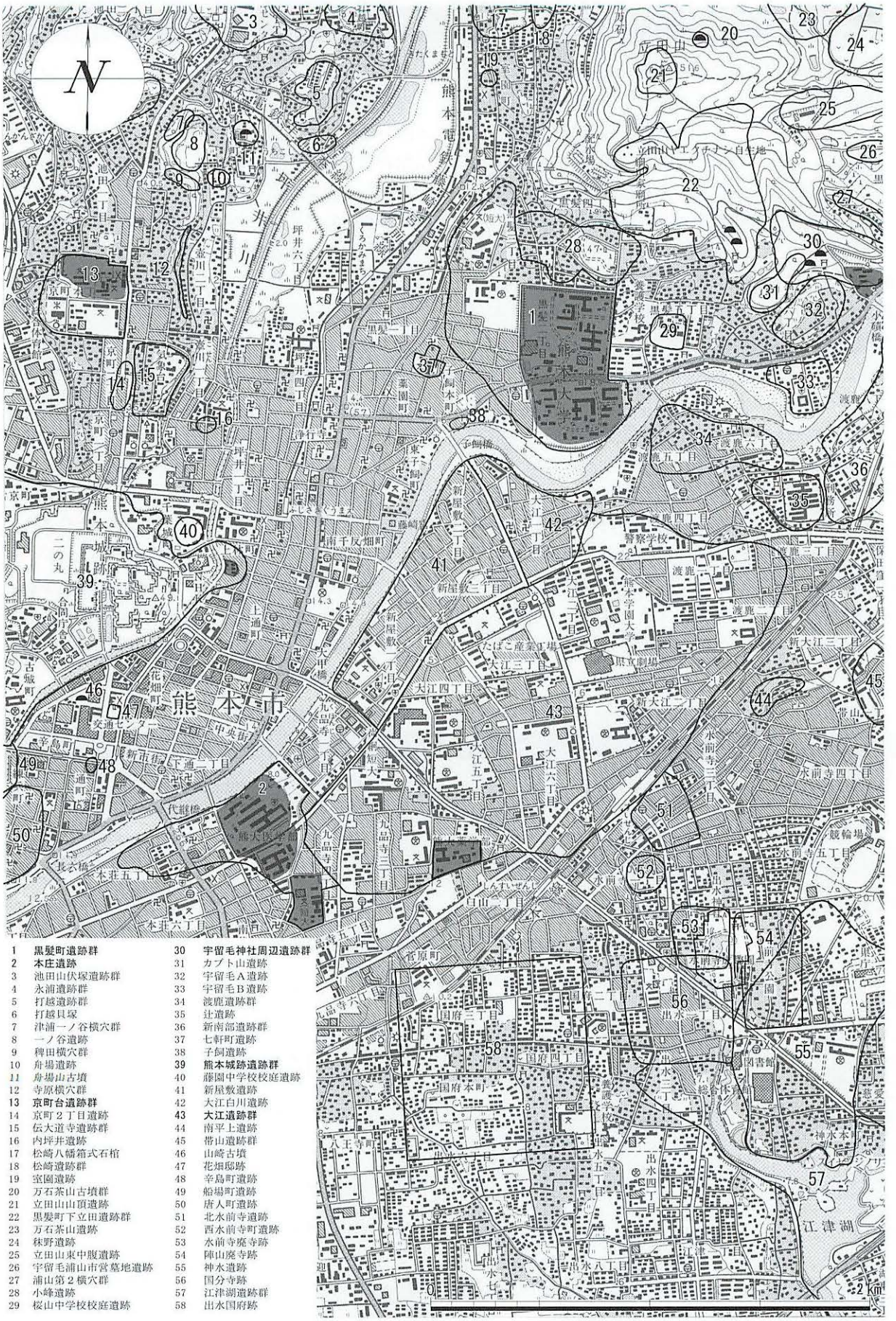
黒髪南地区における1429・1430・1436・1437調査地点の発掘調査は本部棟改修にかかわる調査である．いずれの地点からも近代の赤煉瓦基礎が検出され，1908年に竣工した熊本高等工業学校の初代本館の基礎であることが判明したことは大きな成果であった．記録によると，この初代本館は1922年火事によって全焼し，現存する本部棟は1925年に同校本館として再建されたとある．実際の発掘でも灰や被熱した木片，溶けたガラスなどが見つかっており，火災の跡が確認された．

発掘調査は以上であるが，その他立会調査の中で，遺構が検出され，記録したものがある．黒髪北地区では総合研究棟（教育学部西棟）改修工事に伴う立会調査（1528調査地点）において，1890年の第五高等中学校開校に合わせて建てられた習学寮の厨房および浴室と考えられる赤煉瓦基礎が確認された．調査したのは赤煉瓦基

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本市中央区黒髪２丁目40-1 熊本市中央区黒髪５丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪２丁目39-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部６丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（発生医学研究所，エイズ学研究センター等）	熊本市中央区本荘２丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘１丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺４丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	大江地区（薬学部等）	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市渡鹿４丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（学生寄宿舎・職員宿舎等）	熊本市中央区黒髪7丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛Ａ遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛Ｂ遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	秋野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

表２　2015年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
15・４・７～15	１４１６	（黒髪北）武道場等改修機械設備工事	立会調査	1,087.30㎡	古代・近世	ピット・須恵器・土師器・陶磁器
15・４・１～３,16,６・10	１４１７	（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）	立会調査／発掘調査	747.90㎡	弥生・古代・近世・近代	ピット・弥生土器・土師器・陶磁器
15・８・17,18,24,27,9・２	１４２３	66kv 銀座橋熊大医学部線鉛被 OF ケーブル改修工事	立会調査	148.26㎡	古代	溝
15・７・29	１４２５	（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（地下躯体撤去・擁壁設置）	立会調査	1,655.00㎡	なし	遺構・遺物なし
15・11・２	１４２６	（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（本体工事）	立会調査	2,141.00㎡	なし	遺構・遺物なし
14・12・12～15・７・24	１４２９	（黒髪南）本部樹木等撤去その他工事	立会調査／発掘調査	282.40㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ピット・赤煉瓦基礎・土師器・須恵器・陶磁器・赤煉瓦・ガラス・木片
14・12・12～15・７・24	１４３０	（黒髪南）本部屋外スロープ取設工事	立会調査／発掘調査	195.77㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ピット・赤煉瓦基礎・土師器・須恵器・陶磁器・赤煉瓦
15・６・24	１４３２	（医病）管理棟改修その他工事（撤去）	立会調査	279.70㎡	なし	遺構・遺物なし
15・１・７～６・２	１４３６	（黒髪南）本部エレベーター棟増築工事	立会調査／発掘調査	60.30㎡	古代・近世・近代	住居・ピット・赤煉瓦基礎・土師器・須恵器・陶磁器・赤煉瓦
15・１・14～９・７	１４３７	（黒髪南）本部改修その他機械設備工事	立会調査／発掘調査	102.00㎡	古代・近世・近代	住居・ピット・赤煉瓦基礎・土師器・須恵器・陶磁器・赤煉瓦・ガラス・鉄器・碁石、硯
15・６・22～７・３	１４４２	（医病）管理棟改修その他工事	立会調査	563.40㎡	古代・近世・近代	住居・溝・土坑・ピット・土師器・須恵器・陶磁器
15・４・１～３,16	１４４３	（京町）教育学部付属小学校新営その他機械設備工事（その２）	立会調査	249.80㎡	弥生・古代・近世	弥生土器・土師器・陶磁器
15・５・11	１５０１	（黒髪北）五高記念館前庭植栽除根業務	立会調査	30.00㎡（6.40㎡）	なし	遺構・遺物なし
15・５・18,19継続中	１５０２	（本荘北）臨床研究棟新営電気設備工事	立会調査	77.87㎡（33.60㎡）	なし	遺構・遺物なし
15・５・20,21	１５０３	（本荘北）臨床研究棟新営機械設備工事（その２）	立会調査	19.00㎡	古代	土師器・瓦
15・５・18～28,６・4,7・６～28	１５０４	（本荘北）臨床研究棟新営機械設備工事（その３）	立会調査	485.00㎡	古代・近代	住居・溝・土坑・ピット・建物基礎・土師器・須恵器
15・６・12,17,19,24,25,30,７・１～３,28,29	１５０５	（医病）管理棟改修機械設備工事	立会調査	349.00㎡	古代・近世	土師器・陶磁器
15・６・29	１５０６	（黒髪南）黒髪南Ｃ７　６階実験室電源その他工事	立会調査	40.80㎡	なし	遺構・遺物なし
15・７・30	１５０７	（黒髪北）北地区学生会館Ａ棟前舗装補修工事	立会調査	150.00㎡	なし	遺構・遺物なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
15・8・7,12・18	１５０８	（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修工事	立会調査	36.70㎡	なし	遺構・遺物なし
15・8・20	１５０９	（大江北）Ａ棟北側屋外給水管修理工事	立会調査	28.00㎡	なし	遺構・遺物なし
15・9・11	１５１０	（黒髪南他）台風15号に伴う樹木復旧作業（黒髪）	立会調査	42.30㎡	なし	遺構・遺物なし
15・9・14	１５１１	人文社会科学喫煙所設置工事	立会調査	12.06㎡	古代	土師器・須恵器
15・9・15	１５１２	（黒髪南他）台風15号に伴う樹木復旧作業（大江）	立会調査	12.00㎡	なし	遺構・遺物なし
15・9・28	１５１３	（本荘北）臨床研究棟新営仮設電柱建柱工事	立会調査	9.00㎡	なし	遺構・遺物なし
15・10・26～29,11・4～18,16・2・29,3・1	１５１４	（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修機械設備工事	立会調査	78.90㎡	古代	住居・溝・ピット・土師器・須恵器
15・11・26	１５１５	（黒髪北）北地区学生会館中庭インターロッキングブロック復旧工事	立会調査	19.60㎡	なし	遺構・遺物なし
15・11・26	１５１６	（黒髪北）黒髪北Ｅ１（全学教育棟）西側インターロッキングブロック復旧工事	立会調査	27.30㎡	なし	遺構・遺物なし
15・11・30	１５１７	（宇留毛）寄宿舎共通棟男子浴室等改修機械設備工事	立会調査	9.20㎡	なし	遺構・遺物なし
15・12・8	１５１８	（本荘北）屋外サイン設置工事	立会調査	32.50㎡	なし	土師器・須恵器
15・12・7,9,16	１５１９	（本荘中他）屋外サイン設置工事	立会調査	54.40㎡	なし	遺構・遺物なし
16・1・4,6	１５２０	（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・ガス・水道）取設工事（黒髪）	立会調査	172.50㎡	なし	遺構・遺物なし
16・1・14	１５２１	（黒髪北）武夫原廻り（五高記念館側）フェンス復旧工事	立会調査	5.88㎡	なし	遺構・遺物なし
16・1・18,19	１５２２	（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気水・ガス）取設工事（大江）	立会調査	40.30㎡	なし	遺構・遺物なし
16・3・11	１５２３	（黒髪南）黒髪南Ｗ７排水設備改修工事	立会調査	10.60㎡	なし	遺構・遺物なし
16・1・5・22・26～2・1,3～24,29	１５２４	（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修工事（外構工事）	立会調査	412.30㎡	古代	住居・溝・ピット・土師器・須恵器
16・1・25,2・1,2	１５２５	（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（本荘中他）	立会調査	93.50㎡	なし	遺構・遺物なし
16・1・28	１５２６	（京町）教育学部附属教育実践総合センター東側プレハブ倉庫復旧工事	立会調査	11.91㎡	弥生	弥生土器
16・2・4	１５２７	（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（本荘北）	立会調査	12.00㎡	なし	遺構・遺物なし
16・2・12,19,22	１５２８	（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修工事	立会調査	311.00㎡	近代	赤煉瓦基礎
16・2・12	１５２９	（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修電気設備工事	立会調査	35.20㎡ (0.10㎡)	なし	遺構・遺物なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
16・2・12,19	１５３０	（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修機械設備工事	立会調査	22.00㎡	なし	遺構・遺物なし
16・2・3	１５３１	（大江北）蕃滋館東側埋設ガス管漏洩修理工事	立会調査	2.00㎡	なし	不明遺構
15・3・7,8	１５３２	（本荘南）駐車場拡張工事	立会調査	80.00㎡	なし	遺構・遺物なし

※調査番号1416・1417・1423・1425・1426・1429・1430・1432・1436・1437・1442・1443は2014年度からの継続．時代，遺構・遺物は2015年度に限定．
※調査期日の「継続中」は，2016年度まで継続している件．

礎の３段分だけであったが，取り上げた赤煉瓦の大部分に「熊本監獄製造」刻印が押捺されていた．第五高等中学校建設時の1888～1989年，下立田村に設置された熊本監獄煉瓦製造所にて煉瓦の製造が行われていたことが記録に残っており，出土品でそれが裏付けられた．

また黒髪北地区では旧北地区食堂の改修工事に伴う立会調査（1514・1524調査地点）において，古代の竪穴住居や溝を検出した．この場所は黒髪北地区の南東部にあたり，従来調査があまりない所であった．従来，黒髪北地区南部の調査としては附属図書館南棟・放送大学熊本学習センターのある場所（0425調査地点）において古代の竪穴住居が多数検出されている．また附属図書館周辺で行われた1302調査地点でも竪穴住居が発見されている．1514・1524調査地点の調査によって，古代の集落が黒髪北地区の南部のみならず，南東部にも広がっていることが明らかにできたと言える．

最後に本荘地区について触れておきたい．今年度は昨年度に引き続き，本荘北地区において，臨床研究棟新営工事，管理棟改修工事が行われ，それに伴う調査を実施した．前者は第６病棟があった所で本体工事部分や地下躯体撤去・擁壁設置部分では遺構は確認されなかったが，その周縁部を調査した機械設備工事（その３）に伴う立会調査（1504調査地点）において古代の遺構の残存が認められた．またそれより南側の管理棟改修工事に伴う立会調査（1442調査地点）では，建物外周のみの調査であったが，１箇所，竪穴住居や溝が検出された．遺物が少なく，遺構の時期は特定できなかったが，古墳時代前期末の土器が出土したことは興味深い．本荘北地区においてはその西部域（9901・0006・0104・0509調査地点）において，古墳時代前期末から中期初頭にかけての遺物・遺構が確認されており，本地点の調査成果は古墳時代前期末から中期初頭にかけての遺構の広がりを解明する上で，今後参考になると思われた．

また本年度も，本部棟改修工事にかかわる発掘調査において赤煉瓦建造物が発見されたことを契機に，現地説明会を開催した．埋蔵文化財の調査成果は，機をとらえてさまざまな形で公開を行うことが重要である．今後も大学内外へ向けた広報活動を行っていきたい．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－１　黒髪北地区　（図２・３参照）

１．（黒髪北）武道場等改修機械設備工事に伴う立会調査（1416）

＜調査期間＞

2015年４月７～15日

＜調査面積＞

1,087.3㎡（17.0㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・宮崎　拓（株式会社有明測量開発社）

＜調査概要・結果＞

武道場周辺の給水・排水・ガス管・桝の設置に伴う立会調査で，昨年度に引き続き実施したものである．昨年度の区分のうち，６区南端と13区南管路を調査した．

６区南端は，幅1.5m，長さ2.2mの長方形部分と，その南側の幅0.7m，長さ1.0mの拡張部を掘削した．調査区西際から0.25mまでの範囲は深い撹乱が入っていたが，それ以東では，地表下0.5～0.6mを上面として古代の包含層と考えられる黒褐色土が厚さ0.1m残存していた．その下は暗褐色粘質土が存在し，この土を掘り込んだピット８基が確認された．ピットは調査区の北側に３基，中央部に４基，張出部に１基検出された．ピットを調査後，ピットの地山となっていた暗褐色粘質土を掘削した．暗褐色粘質土からは遺物は出土しなかった．最終的には地表下1.0mまで掘削し，調査を終了した．

武夫原南西部の13区については，南管路を掘削した．掘削したのは長さ8.7m，幅1.2～1.9m，地表下1.6m，南端のみ地表下2.1mまで掘削した．掘削したのは全て現代埋土で，南端の西壁断面の地表下1.0～1.9mに暗・黒褐色粘質土の存在を確認した．なお本区は前年度の年報にも報告したが，2015年度に調査したので，再度報告した．

写真１　６区南端遺構完掘状況（南より）

写真２　６区最下底面掘削状況（南より）

写真３　13区南管路掘削状況（南より）

２．（黒髪北）五高記念館前庭植栽除根業務に伴う立会調査（1501）

＜調査期間＞

2015年５月11日

＜調査面積＞

30.0㎡（6.4㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

五高記念館南側の前庭の植栽の除根を行う工事に伴う立会であった．当初予定範囲内の東側幅0.5～1.1m，長さ約4.5mの範囲を地表下0.2mまで掘削し，根を除去した．また予定範囲内の中央において，1.6×1.2mの範囲を地表下0.2mまで掘削した．いずれも埋土（表土）内

図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

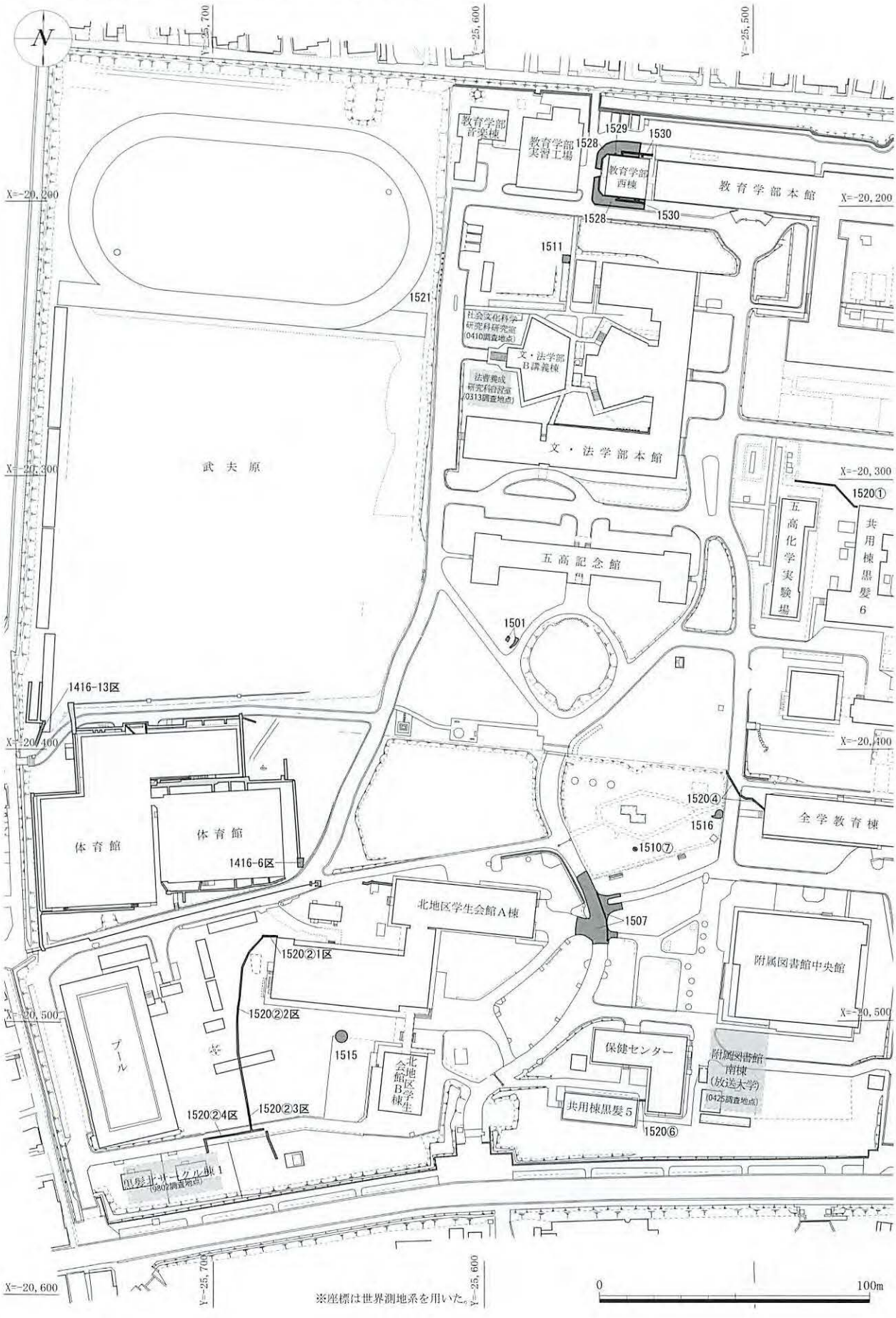
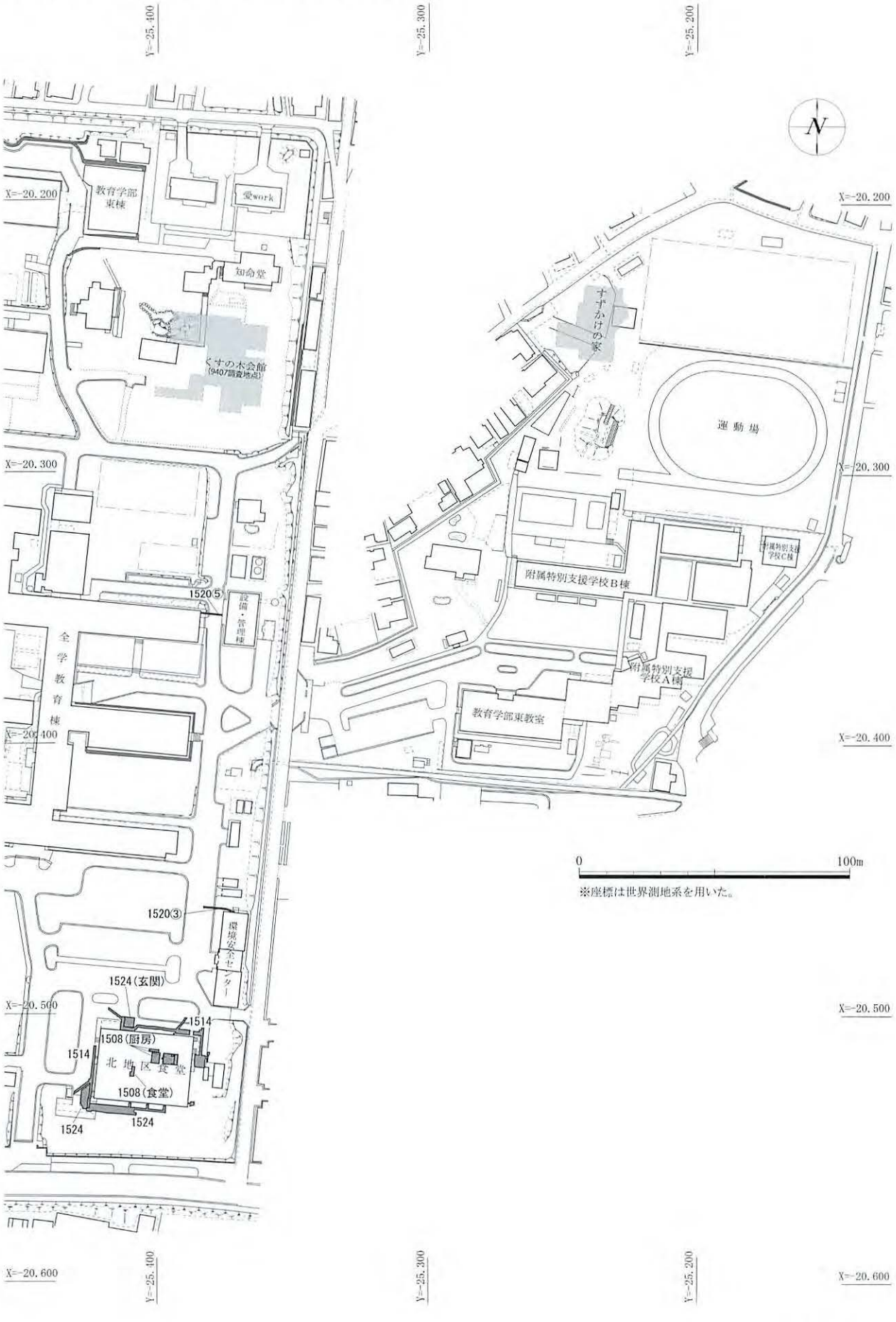


図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）



を掘削しただけで終了した.

遺構・遺物の検出はなかった.

写真４　作業風景（南東より）

写真５　東側掘削状況（南東より）

写真６　中央掘削状況（北より）

３．（黒髪北）北地区学生会館Ａ棟前舗装補修工事に伴う立会調査（1507）

＜調査期間＞

2016年７月30日

＜調査面積＞

150.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区学生会館Ａ棟の東側道路の樹脂舗装，インターロッキング舗装・補修および側溝の新設に伴う立会調査である.

舗装部分は深度が0.3m以内であり，現代埋土内の工事と思われるので，掘削は遺跡への影響はないと判断し，側溝を新設する調査区東側を対象に調査を実施した．南

写真７　作業風景（南西より）

写真８　北端掘削状況（南より）

写真９　南端掘削状況（南より）

北に約18.70×0.26mの範囲を地表下0.32mまで掘削した．

掘削の大部分はコンクリートの下に敷かれた砕石内におさまった．一部土が確認できたが，砂岩ブロックや砕石・砂利石などを含んでいたため，現代埋土と判断した．

遺構・遺物の検出はなかった．

4．（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修工事に伴う立会調査（1508）

＜調査期間＞

2015年８月７日，12月18日

＜調査面積＞

36.7㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

旧北地区食堂をグローバル教育カレッジ棟に改装する工事に伴う立会調査である．調査地点は食堂地点・厨房地点の２箇所からなる．食堂地点は3.6×1.6mの範囲を，建物床面から深さ0.35～0.40mまで掘削を実施した．掘削はコンクリートの下に敷かれた砕石と現代埋土内におさまったため，文化層への影響はなく，遺物・遺構の検出はなかった．

厨房地点は4.3×8.8mの範囲を建物床面から深さ0.25～1.50mまで，その範囲のすぐ北西側の1.2×3.9mの範囲を床面から深さ0.3mまで，重機と手掘りで掘削を実施した．建物床面から深さ1.4mに幅0.35mの梁がめぐっており包含層・地山等は残っていなかった．遺物・遺構の検出はなかった．

写真10　作業風景（南より）

写真11　厨房地点作業風景（南東より）

写真12　厨房地点掘削状況（南東より）

写真13　食堂地点掘削状況（南西より）

5．（黒髪南他）台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査（1510）

＜調査期間＞

2015年９月11日

＜調査面積＞

42.3㎡（2.6㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号により倒れた樹木の復旧作業のうち，黒髪地区の所在する７本の樹木に対する復旧作業に伴う立会調査である．黒髪北地区は１本の樹木が該当する（№⑦）．他の６箇所（№①～⑥）は黒髪南地区に所在するため，

黒髪南地区の項で報告する．

No⑦は全学教育棟と北地区学生会館Ａ棟の間の広場に所在する．東西1.7m，南北1.5mの範囲において，木を中心に幅約0.5m，深さ地表下0.3mの溝を円形に掘り巡らす工事であった．掘削した土は大半が山砂で，下部のみ礫が混じる土であった．いずれも現代埋土内で済んだ．遺構・遺物の検出はなかった．

写真14　No⑦作業風景（北西より）

写真15　No⑦掘削作業風景（南西より）

写真16　No⑦掘削状況（南西より）

6．（黒髪北）人文社会科学喫煙所設置工事に伴う立会調査（1511）

＜調査期間＞

2015年９月14日

＜調査面積＞

12.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区文法学部北棟西側に位置する駐輪場の北側に，喫煙所を設置する工事に伴う立会調査である．掘削工事は屋根を支える基礎部分４箇所の桝掘りと，3.0×2.9mの範囲の砕石除去からなっていた．地形を見ると調査地点は北に向かって砕石が厚くなっている．

南東桝は0.65×0.65mの範囲を掘削した．地表から0.35m掘削すると黒褐色土の古代の遺物包含層を確認したため，慎重に下げたが遺構は確認できなかった．深さ0.6mまで掘削した．途中0.48mで暗褐色土を確認した．包含層からは，若干の土師器・須恵器片を検出した．

北東桝は北側にコンクリートがあったため0.65×0.55mの範囲で掘削した．上面は現代埋土と栗石の掘方で削

写真17　作業風景（北より）

写真18　北東桝焼土検出状況（東より）

平されていたが，地表から0.5m程で多量の焼土と粘土を確認した．焼土，粘土周辺も焼土や暗褐色のブロックを多量に含んでおり遺構埋土と思われる．これらが検出されたため，遺構の現状保存を目的とし，掘削深度を浅くして工事を進めた．

西側２箇所は0.3×0.3mの範囲を掘削した．北西桝は地表から0.4m掘削した．地表面の標高が他の３箇所より高かったこともあり，掘削したのは全て現代埋土内におさまっており，黒褐色土には到達しなかった．南西桝は地表下0.34mまでが現代埋土で，黒褐色土の遺物包含層を0.06m下げるに留まった．いずれも遺構・遺物の検出はなかった．

狭小の範囲の掘削であったため断定はできないが，南東桝からは硬化面は検出されていないため，北東桝の焼土・粘土が竈であれば竪穴住居は調査範囲の東側に展開すると思われる．

写真19　調査区掘削状況（東より）

７．（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修機械設備工事に伴う立会調査　（1514）

＜調査期間＞

2015年10月26～29日，11月４～18日，2016年２月29日，３月１日

＜調査面積＞

78.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

旧北地区食堂をグローバル教育カレッジ棟に改修する工事のうち，機械設備工事に伴う立会調査である．旧北地区食堂の東西南北４辺の外周に工事を実施したので，東部，北部，西部，南部の順で説明する．

東部のうち南東隅はガス管周りの掘削であった．東西2.2m，南北2.1mの範囲を掘削した．建物寄りの西半はガス管やコンクリートが存在し，地表下0.15mしか掘削していない．東半は中央部を地表下0.7mまで掘削した．掘削したのは山砂を含む，現代埋土であった．

東部中央域は広く掘削した中央部と，細長い管路の北東管路からなる．中央部は東西3.8m，南北4.5mの範囲を掘削した．建物寄りの西半は南北に走るヒューム管やガス管および汚水桝があり，撹乱が著しかった．東半は地表下0.25mで暗褐色粘質土―通称ニガが検出された．暗褐色粘質土上面で遺構確認を行い，遺構が無いことを確認した後，地表下1.0mまで慎重に掘削を続けた．遺構・遺物の検出はなかった．またこの中央部は東側に存在する桝まで拡張掘削した．大部分は桝および配管の埋土であったが，地表下0.85mでローム土を確認した．

東部の北東管路は幅0.8m，長さ7.3mの規模からなる．地表下0.4m下げたところで，管に沿うようにして西半に撹乱，東半に暗褐色土が検出された．そこで遺構確認をおこなったところ，暗褐色土上にて径0.23mのピット１基を確認した．工事は撹乱部分だけを掘削すれば済むとのことであったので，西半の撹乱部分を地表下0.7mまで掘削して，当該部分の立会調査は終了した．

北部は東部の掘削範囲に接続し，建物の北辺に平行して東西方向に約29.5m掘削した．北部は東端から2.7mの位置に幅1.2mの共同溝のコンクリートが南北方向に延びており，共同溝部分は掘削していない．共同溝以東の北部東端域においては，東西2.8m，南北2.9㎜の範囲内に，平面形が逆Ｌ字状になるように掘削した．地表下0.45m下げた段階で，掘削部分のうち西半は全面撹乱，東半の一部に暗褐色土が存在することがわかった．撹乱部分は地表下0.86mまで掘削した．暗褐色土部分は遺構確認の結果，遺構は存在しなかったので，慎重に掘削を進め，最終的には地表下0.8mまで下げた．遺構・遺物の検出はなかった．

北部のうち，共同溝以西の中央域は，西端の玄関張出

写真20　東部作業風景（南東より）

部まで東西長26mほどある．建物の北側に幅0.7mの犬走コンクリートが存在したので，それ以北において，幅約2.2mの範囲の表土剥ぎを実施した．そして犬走北辺から0.7～0.8m北の位置において，幅0.7～0.8mの配管用掘削を実施した．玄関張出部の南東側だけは犬走北辺に接して掘削した．また中央域のやや東寄りには北東部の雨水枡と，建物の雨樋にそれぞれ向かって分岐する幅0.7m・長さ約5.1m，幅0.6m・長さ0.7mの分岐管路が存在した．掘削深度は東西26mの中央管路において0.4m～0.65m，分岐管路において0.25～0.55mあった．掘削した土の大部分は撹乱土であったが，分岐管路の交点から西側2.5mの範囲には地表下0.35mにおいて褐色土が存在した．遺構確認の結果，樹痕しか存在しなかったので，慎重に褐色土を掘り下げた．その下の土は暗褐色粘質土に移行しており，地表下0.65mまで掘った時点で当該部分の掘削は終了した．

北部のうち西側の玄関張出部の調査では，玄関東側は地表下0.7mまで掘削したが，全て撹乱土であった．一

写真21　東部南東隅掘削状況（東より）

写真22　東部中央域包含層検出状況（南より）

写真23　東部北東管路遺構確認状況（西より）

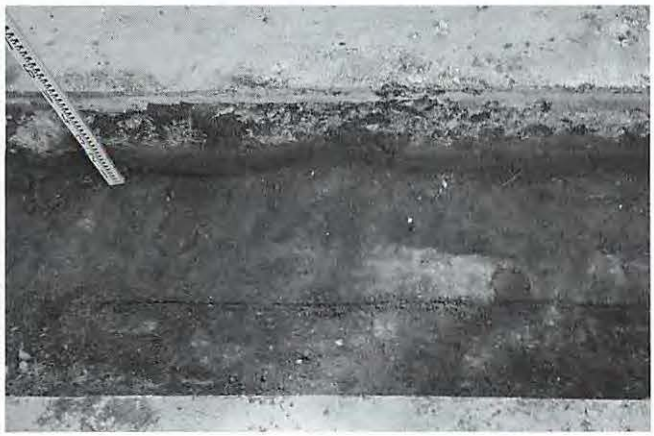


写真24　北部分岐管路交点西側掘削状況（東より）

写真25　北部中央管路掘削状況（東より）

写真26　北部玄関張出部北西管路掘削状況（北西より）

方北側の桝に向かって北西に延びる管路の調査では，地表下0.4mにおいて溝の覆土と風倒木が検出された．溝は北東―南西方向に走るものと思われた．当該部分は管路の掘削深度を浅くする工程をとることになり，遺構の調査は回避された．

西部は建物の北西隅から南に0.6mの地点から掘削を開始し，建物の西壁に平行して南北長23.5m，幅0.8mを掘削した．途中北から13mの位置では，南西方向へ延びる西部分岐管路を掘削した．西部北半では地表下0.55～0.6mにおいて撹乱と暗褐色粘質土を検出した．撹乱部分は撹乱埋土を地表下0.7m付近まで掘削した．暗褐色粘質土が検出された部分では遺構確認をおこなったが，遺構は無かったため，慎重に掘り下げ，地表下0.6～0.7m付近まで掘削した．西部分岐管路が分岐する交点部分およびその周辺においては，地表下0.5mにおいて，暗褐色粘質土を地山として，北西から南東に延びる溝やピットが検出された．また分岐部西端においては竪穴住居と思われる覆土を検出した．溝や竪穴住居は工事による掘削が避けられないため，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，立会調査の中で記録することになった．調査では竪穴住居は覆土を0.05m削っただけであるが，溝部分は溝下底まで調査し，さらに地表下1.1mまで地山を掘削した．遺物としては土師器，須恵器が出土した．

南部は南北に延びる幅0.8～0.9m，長さ1.7～3.9mの排水管路を４本掘削するものであった．掘削深度は0.55～0.6mで，掘削したのは転圧を受けて硬くしまった現代埋土であった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真27　西部北半掘削状況（南より）

写真28　西部分岐部遺構確認状況（北東より）

写真29　南部排水管路掘削状況（北より）

8．（黒髪北）北地区学生会館中庭インターロッキングブロック復旧工事に伴う立会調査（1515）

＜調査期間＞

2015年11月16日

＜調査面積＞

19.6㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号の影響で倒れた，北地区学生会館Ａ棟南側のセンダンの木を除根し，周りのインターロッキングブロックを復旧する工事に伴う立会調査である．

北地区学生会館Ａ棟から14m南側に位置する本地点において，直径4.6mのインターロッキングブロックと，

写真30　作業風景（南東より）

範囲内に設置されていたサークルベンチを撤去し，重機で掘削をおこなった．地表下0.75m掘削したところで，東側半分に古代の包含層と思われる黒褐色土が確認された．当初の予定では除根となっていたが，包含層への影響を考え現状で切断し，調査は終了した．

遺構・遺物の検出はなかった．

写真31　包含層検出状況（南西より）

写真32　掘削状況（北より）

9．（黒髪北）黒髪北Ｅ1（全学教育棟）西側インターロッキングブロック復旧工事に伴う立会調査（1516）

＜調査期間＞

2015年11月26日

＜調査面積＞

27.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号の影響により倒れた，黒髪北Ｅ１棟西側のヒマラヤスギを除根し，周辺のインターロッキングブロックを復旧する工事に伴う立会調査である．

黒髪北Ｅ１棟の西側の道路の擁壁角を基点として，西側に4.2mまで，北側に2.7mまでの範囲を深さ0.7～0.8m掘削した．途中撹乱埋土を含まない地山のような土を，ブロック状に確認したが，これは地下の根が倒木の際に土層を逆転させたものと思われる．遺物の有無を確認しながら掘削をおこなったが，検出されなかった．

写真33　作業風景（南西より）

写真34　根釣り上げ状況（南より）

写真35　掘削状況（東より）

10.（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（黒髪）に伴う立会調査（1520）

＜調査期間＞

2015年１月４・６日

＜調査面積＞

172.5㎡（111.5㎡　黒髪南地区も含む）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

電力デマンド等計測システム取設工事（黒髪）に伴う立会調査である．本工事は10箇所の掘削からなるが，教育学部東教場も含まれていたため，立会が必要なのは８箇所であった．黒髪北地区にはNo.①～⑥の６箇所，黒髪南地区にはNo.⑦・⑧の２箇所ある．ここでは黒髪北地区の６箇所を報告する．

No.①は共用棟黒髪６から化学実験場北側の桝にかけて配線を設置するための掘削であった．掘削部分の幅は0.

写真36　No.①作業風景（西より）

写真37　No.①東半掘削状況（南東より）

写真38　No.①西半掘削状況（東より）

写真39　No.②１区作業風景（北西より）

写真40　No.②１区掘削状況（西より）

写真41　No.②２区作業風景（南より）

45m，長さは全体で27mであった．掘削部分は共用棟黒髪６から北西方向に11m延び，そこ屈折点を設け，方向を東西方向に変えて16m直線的に延びるものであった．掘削深度はそれほど深くなかったので，上述の屈折点を境に東半11m部分と西半16m部分に分け，東半において長さ4.6m，西半において長さ8.5mの掘削に立ち会った．東半は駐車場になっている所であり，地表下0.35mまで掘削したが，上位の0.25mは砕石・アスファルト，下位の0.1mは山砂が入っているだけであった．西半の立会箇所は芝生となっていた．地表下0.2mは現代埋土，その直下に石灰が水平に入っており，その下位は，西側ではロームブロックを含む撹乱土，東側は小礫・焼土・炭化物を混じる黒褐色土が存在していた．黒褐色土も礫の含有から近代～現代の所産と考えられた．遺構・遺物の検出はなく，包含層にも影響しないことから，立会を実施しなかった箇所も含め，全域的な掘削を了承した．

No.②は北地区学生会館Ａ棟西側辺を出発点として，現有するアスファルト道路に向かって西進し，道路に至っ

写真42　No.②２区掘削状況（南より）

写真43　No.②３区掘削状況（南西より）

写真44　No.②４区掘削状況（東より）

写真45　No.③作業風景（西より）

写真46　No.③掘削終了（西より）

写真47　No.④作業風景（南西より）

てからはアスファルト道路を南下し，東西に走る道路との交差点で西に曲がり，黒髪北サークル棟１に至る配線の埋設に伴うものであった．１～４区の４箇所のトレンチ掘削に立ち会った．１区は学生会館Ａ棟西側に設定したもので，幅0.5m，長さ5.0m，深さ0.4m掘削した．掘削した土は，学生会館近くは全て現代埋土，アスファルト道路との交点付近は上位より砕石，山砂，礫を含む現代の黒褐色土であった．２区は学生会館Ａ棟南の広場の西側のアスファルト道路部分に設定した．幅0.5m，長さ10.0mの範囲を地表下0.4mまで掘削した．掘削した土は，上位より砕石，山砂，礫を含む近代～現代の暗褐色土であった．３区は交差点部分で，アスファルト道路下を幅0.5m，長さ9.4m，深さ0.4m掘削した．掘削した土は上部が砕石，下部が暗褐色土ないし黒褐色土であった．暗褐色土・黒褐色土は礫を含む現代の所産であった．４区は黒髪北サークル棟１付近に設定したもので，幅0.5m，長さ4.4m，深さ0.4mである．１箇所だけ近代～現代の埋土があったが，他はみな撹乱土であった．遺構・遺物の検出はなく，包含層にも影響しないことから，立会を実施しなかった箇所も含め，全域的な掘削を了承した．

No.③は環境安全センターの建物北辺から西に11.2m，配線を設置するための掘削箇所であった．掘削の幅は0.4～0.5m，深さは0.4～0.5mであったが，西側の一部は深さ0.8mまで掘削した．掘削したのは大部分が現代埋土であったが，駐車場の縁石直下付近に地表下0.4mで黄褐色ローム土が検出された．ローム面で遺構確認をおこなったが，遺構はなかったので，地表下0.5mまでローム土を掘削し，終了した．遺構・遺物の検出はなかった．

No.④は全学教育棟の西壁から北西に向かって配線設置用の掘削をするものであった．掘削部分の幅は0.5m，

写真48　No.④掘削状況（西より）

写真49　No.⑤作業風景（南より）

写真50　No.⑤掘削状況（東より）

写真51　No.⑥作業風景（南より）

写真52　No.⑥栗石検出状況（西より）

深さは0.4m．全長19.3mあるが，道路部分の10.0m，歩道部分の2.0m，芝生部分の7.3mからなる．歩道・芝生部分で掘削したのは全て現代埋土，道路部分で掘削したのは撹乱と，近代～現代の暗褐色土であった．

№⑤は設備・管理棟と全学教育棟の間に配線を設置する箇所であった．両棟の外周の犬走はコンクリート内で配線ができるとのことであったので，両棟の犬走間の約5.3mが土の掘削箇所であった．東側半分に関し，長さ2.3m，幅0.4mの範囲を地表下0.45mまで掘削した．掘削したのは礫・砂・炭化物・瓦片を含む現代の黒色土であった．西半分も同様の状況が予想されたので，西側は慎重に掘削を進めるよう指示して，立会を終了した．遺構・遺物の検出はなかった．

№⑥は共用棟黒髪５と保健センターの間に配線を設置するための掘削箇所であった．共用棟黒髪５の犬走の東辺と保健センター西側の犬走の西辺とをつなぐように，幅0.5m，長さ2.2mの範囲を掘削した．地表下0.25m掘り下げたところ，共用棟黒髪５寄りの位置で栗石の集積が検出された．栗石の周りには煉瓦片・炭化物・焼土があり，建物の基礎の可能性があるので位置を記録した．その後，全体を地表下0.45mまで下げ，掘削を終了した．遺物は出土しなかった．

11.（黒髪北）武夫原廻り（五高記念館側）フェンス復旧工事に伴う立会調査（1521）

＜調査期間＞

2016年１月14日

＜調査面積＞

5.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号の影響で，文法学部北棟と武夫原の間にあるフェンスが傾いたため，それを復旧する工事に伴う立会調査である．損傷の激しい７箇所のフェンスを建てなおすことになり，フェンス基礎部分８箇所の掘削が必要であった．

北から南に，２m間隔で№１～８の８箇所掘削をおこなった．同じ場所に同規格のフェンスを建てなおすため，新たな箇所の掘削は必要としなかった．基礎を抜き取った後，複式ショベルで掘方のみを掘削した．範囲は共通して0.4×0.4mであった．深さは地上から，№７のみ0.3mで，他は0.40～0.45mまでであった．そのうち№２には石が，№７は石とコンクリートが敷かれていた．そのため，№７は0.1m工事に必要な深さが足りず，コンクリートを斫って施工した．

№７の敷石はコンクリートを含んでいたことから現代のものと思われる．遺物・遺構の検出はなかった．

写真53　作業風景（北より）

写真54　№７敷石検出状況（北より）

写真55　調査区掘削状況（北より）

12.（黒髪北）校舎（旧北地区食堂）改修工事（外構工事）に伴う立会調査（1524）

＜調査期間＞

2015年１月５・22日，１月26日～２月１・３～24・29日

＜調査面積＞

412.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

旧北地区食堂をグローバル教育カレッジ棟に改修する工事のうち，外構工事に係る立会調査である．

工事範囲は旧北地区食堂の北側，南西側，南側からなる．北側は玄関部分とそれ以外に分かれる．

玄関部分は玄関直下と，玄関東側の建物外に位置する．玄関直下は0.7×0.7mの範囲を，建物床面から深さ0.28m手掘りで掘削を実施した．文化層の影響はなく，遺物・遺構の検出はなかった．玄関東側の部分は3.0×4.5mの範囲を地表下0.35m掘削したところで，建物から離れた北側において黒色土が検出された．さらにその南側では地表下0.45mから0.5×1.4mの範囲で暗褐色粘質土が検出された．黒色土の部分からは黒褐色の埋土を持つピット２基が検出された．当初の計画では地表から深さ0.5m掘削の予定であったが，遺構の現状保存のため，当該箇所は掘削深度を浅くして工事を実施した．遺物は検出されなかった．それ以外の部分はアスファルト舗装のため地表下0.2mまで掘削するものが主な工事であった．当該部分は1514調査地点として深さ0.45～0.65mまで掘削しており，地表下0.2mでは包含層には到達しないと判断されることから，再度本工事で立会することはせず，慎重に掘削工事を進めることを了承した．

また同北側において１箇所，同西側において３箇所，建物周囲の犬走コンクリートを剥がして，雨水桝設置のための掘削をした．幅0.3m，長さ0.8mの範囲を地表下0.5mまで掘削した．ここに関しては掘削したのは全て

写真56　北側玄関部分作業風景（北西より）

写真57　北側玄関部分掘削状況（北西より）

写真58　南側作業風景（西より）

写真59　南側側溝東半東端掘削状況（東より）

写真60　南側側溝東半掘削状況（南東より）

現代埋土であった．遺構・遺物の検出はなかった．

南西側も1514調査地点として地表下0.5mまで掘削し，地表下0.5mまでは現代埋土，0.5m以下に暗褐色粘質土が検出されることがわかっていた．外構工事では同箇所を地表下0.2m掘削するのみであるので，包含層には達しないと判断し，慎重に工事を進めることを前提に，工事着手を了承した．

南側はクランク状に１箇所屈折しながら，東西方向に長く延びる側溝の掘削に立ち会った．側溝は建物南東隅より約20mの位置でクランク状に屈折していた．この屈折点以東を側溝東半，同以西を側溝西半とする．側溝東半は建物南辺に広がる幅1.7mのコンクリート犬走の南辺に沿って東西方向に掘削したもので，長さは13.1m，幅は0.8mあった．側溝掘削部分は東西に走るヒューム管が存在するため，その上部は現代埋土からなっていたが，地表下0.55mにおいて，ヒューム管の掘方とその脇の暗褐色土の残存を確認した．遺構は確認できなかったので，暗褐色土を慎重に下げたところ，地表下0.65mで少し黒味の強い暗褐色土を検出した．この段階でも遺構が確認できなかったので，最終掘削深度0.75mまで人力で掘削をおこなった．暗褐色土の残存部が少なく，上面

写真61　南側側溝西半遺構掘削状況（東より）

写真62　南側側溝西半遺構掘削状況（西より）

写真63　南側側溝西半西端遺構掘削状況（南より）

では遺構の存在を確認できなかったが，断面観察において側溝東半の西端には硬化面の存在を確認できたため，竪穴住居などの遺構が存在する可能性が考えられた．

側溝西半は建物南辺の犬走から1.1m南側に離れた位置に，東西18.7mの長さをもって設定されたものであった．幅は1.0mであったが，西端から2.0mまでの範囲には桝が設置されるので，桝設置部分は幅が1.3mあった．地表下0.5mまでは現代埋土であったが，その下では硬い暗褐色土が存在した．この暗褐色土は古代の遺物を含むが，硬化のため，遺構検出が困難であった．そこで慎重に0.6mまで人力で掘り下げたところ，遺構覆土と思われる土が検出された．工事ではさらに0.1m下げる必要があり，遺構の掘削が避けられないことから，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，立会調査の中で記録保存調査をおこなうことになった．当該箇所においては，その後調査によって，溝３条，竪穴住居11基を検出した．掘削深度の関係で，遺構は全て覆土の途中までの調査であった．西端の桝設置部分のみ地表下1.15mまで掘削した．

また側溝西半と建物の間の南北幅1.1mの範囲は地表下0.2mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であった．

13.（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修工事に伴う立会調査（1528）

＜調査期間＞

2016年２月12・19・22日

＜調査面積＞

311.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

教育学部西棟（黒髪北Ｎ９）の改修工事に伴う立会調査である．校舎の北側，西側，南側の掘削に立ち会った．

校舎北側は校舎北西隅を基点に東へ約13mの範囲にかけて，校舎と以北に存在する縁石の間が工事エリアであった．校舎北辺から最大5.4m幅の範囲を，地表下0.2mまで，アスファルト舗装用に掘削した．掘削した土は全て現代埋土で，大部分の範囲が砕石中の掘削であった．

写真64　北側作業風景（北西より）

写真65　北側東半掘削状況（東より）

写真66　西側北半掘削状況（南より）

一部，校舎に平行してロームを含む撹乱埋土が存在した．また調査区東部において，北東から南西に走るコンクリート製の旧縁石が約5.5mにわたって出現した．遺物は出土しなかった．

校舎北側の西端から校舎西側にかけては，校舎の外壁に平行して幅1.7～3.0mの範囲を地表下0.2mまで掘削した．また校舎西側は中央に所在するスロープを境に，その北側と南側において東西幅約1.6mを，地表下0.2mまで掘削した．その結果，校舎北西隅付近において東側へ

写真67　西側南半掘削状況（南より）

写真68　南側作業風景（南東より）

写真69　南側樹木No.1赤煉瓦検出状況（北より）

の突出をもつ南北に延びる赤煉瓦基礎，スロープ南側において南北に延びる直線的な赤煉瓦基礎を検出した．前者については東に延びる部分は長さ1.8m，幅0.5m，南北方向に延びる部分は長さ4.8m，幅0.7mが確認できた．後者はスロープのすぐ南側で幅0.6m，南北2.6mの存在が確認できた．両者は本来連続するものと思われる．また調査区南西隅付近においても赤煉瓦が存在し，赤煉瓦基礎は長くつながる可能性もある．掘削深度が0.2mと浅かったので，赤煉瓦基礎の上面を検出した程度であったが，１～２段積まれていることは確認できた．この北側西端から西側にかけて確認された南北に延びる赤煉瓦基礎は，第五高等中学校の実測図と対比すると，浴室であることが判明した．当該赤煉瓦は掘削せずに，工事を進めることができるとのことであったので，範囲を記録して，工事の継続を了承した．遺物は出土しなかった．

南側は校舎南西隅から約16mの範囲にかけてが工事対象域で，校舎南辺と南の縁石の間4.2mの範囲を調査した．まず南側には樹木が５本存在したので，東側から№１～５と番号を付し，樹木の根の周りを掘削した．掘削範囲は各所とも2.0～2.5m四方で，深度は0.25～0.50mであった．掘削したのは全て現代埋土であったが，№１・３・

写真70　南側樹木№４掘削状況（北より）

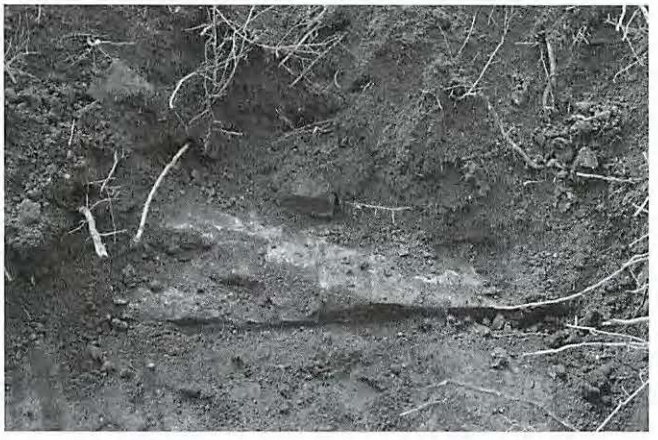


写真71　南側すきとり掘削状況（東より）

写真72　南側赤煉瓦基礎検出状況（北東より）

４においては，南側に赤煉瓦の存在を確認した．赤煉瓦は現状維持したままで樹根を抜けるとのことであったので，切断しながら，根を慎重に抜きとった．

南側は樹木伐根の後，舗装のため，地表下0.2mすきとりをおこなった．西半は現代埋土内での掘削で済んだが，東半において，東西に延びる赤煉瓦基礎が発見された．基礎の規模は長さ4.5m，幅0.7m．赤煉瓦４段が積まれていることを確認した．この赤煉瓦基礎は第五高等中学校の厨房に相当するものである．工事掘削により上から３段目までは除去せざるを得ないことが判明したため，熊本市教育委員会文化振興課に連絡し，立会調査の中で調査することが了承された．そこで赤煉瓦基礎の記録を作成し，その後，赤煉瓦を慎重に外した．赤煉瓦の大半の煉瓦には「熊本監獄製造」刻印が押されていることがわかった．当該箇所の掘削はアスファルト舗装の障害となる必要最低限の赤煉瓦を外すのみとし，その後，施工を了承した．遺物は赤煉瓦のみであった．

14.（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修電気設備工事に伴う立会調査（1529）

＜調査期間＞

写真73　北側作業風景（北より）

2016年２月12日

＜調査面積＞

35.2㎡（0.1㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

教育学部西棟（黒髪北Ｎ９）の改修に伴い，アースを設置するための掘削に立ち会う調査であった．アース設置は校舎の北側と南側でおこなわれた．

北側は1528調査地点で掘削した範囲内のうち，校舎北辺に接する部分において，0.5×0.3m，深さ0.5m掘削した．掘削したのは現代埋土であった．遺構・遺物は出土しなかった．

南側は1528調査地点の掘削で露出した範囲内でアース設置ができたので，掘削はおこなわないで終了した．

写真74　北側掘削状況（北東より）

15.（黒髪北）総合研究棟（黒髪北Ｎ９）改修機械設備工事に伴う立会調査（1530）

＜調査期間＞

2016年２月12・19日

＜調査面積＞

写真75　北側作業風景（北より）

22.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

教育学部西棟（黒髪北Ｎ９）の改修のための機械設備工事に伴う立会調査であった．掘削は校舎の北側と南側でおこなわれた．

北側は校舎北西隅より東へ16.5mの位置を基点として，幅0.5mの管路を西方向に約14m掘削するものであった．

写真76　北側東端掘削状況（西より）

写真77　北側西半掘削状況（東より）

写真78　南側作業風景（南西より）

東端は0.62×1.50mの範囲を桝状に地表下0.70mまで掘削した．ヒューム管が検出され，掘削は終了となった．東端枡から西へ3.0mまではクランク状に幅0.5m，地表下0.65mまで掘削した．それ以東は、幅0.5～0.6mで直線的に掘削した．また２箇所は校舎に接続するように分岐部を設けて掘削した．掘削は地表下0.55mの深度で行われた．これらの箇所において掘削したのは全て現代埋土であった．

南側は校舎南西端から東へ16.0mの位置を基点として，幅0.8mの管路を西へ約13m掘削するものであった．東端は平面形がクランク状をなす．地表下0.80mまで掘削したが，現代埋土であった．それ以外の箇所は直線的に掘削した．地表下0.75mまでの掘削であったが，掘削した土は全て現代埋土であった．

北側・南側ともに，遺構・遺物の検出はなかった．

写真79　南側掘削状況（東より）

Ⅱ－２　黒髪南地区　（図４参照）

１．（黒髪南）本部樹木等撤去その他工事に伴う立会・発掘調査（1429）

＜調査期間＞

2014年12月12日～2015年７月24日

＜調査面積＞

282.4㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・吉留　広．

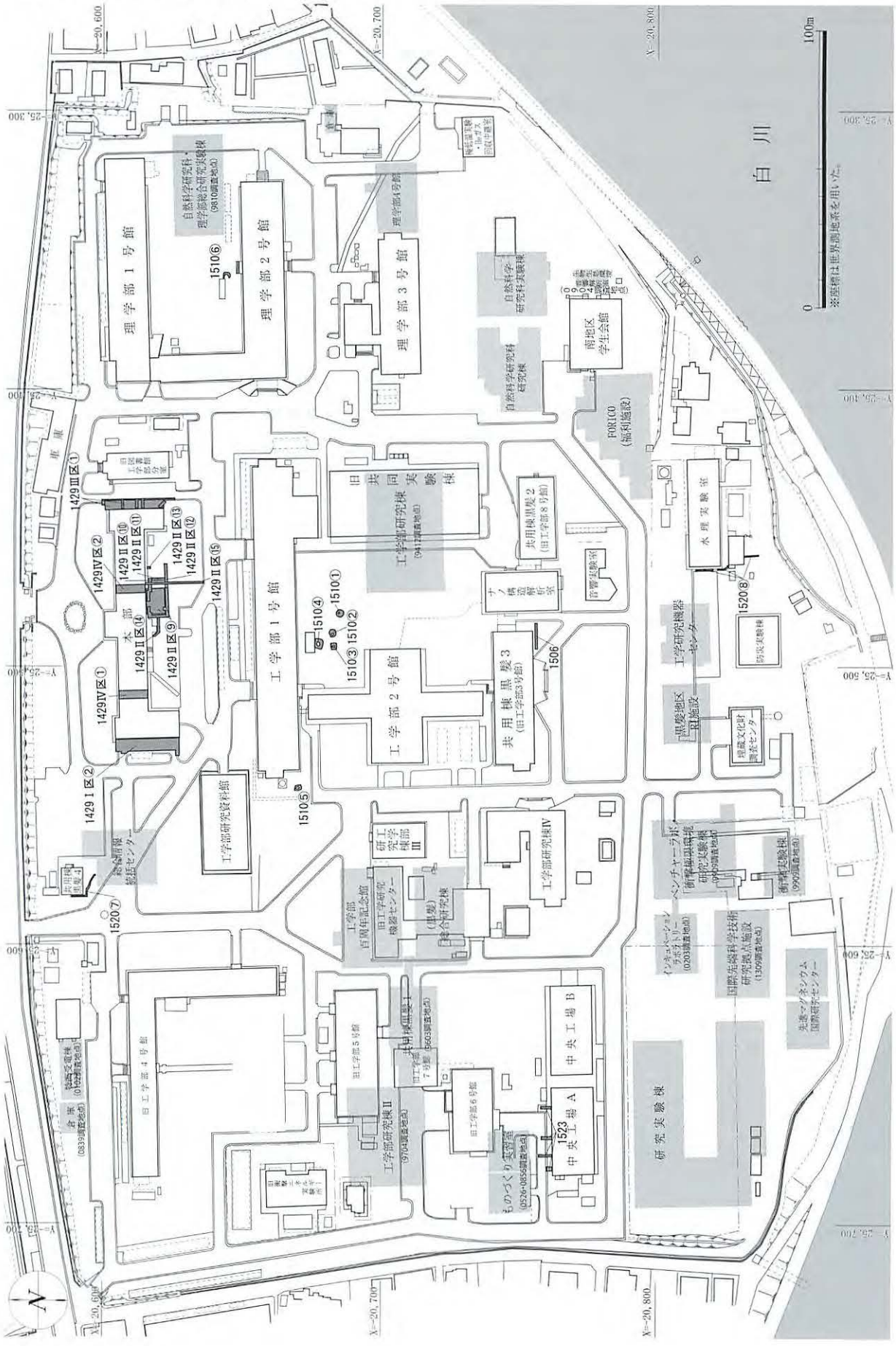
＜調査概要・結果＞

本部周辺の樹木，塗装，土間，雨水枡などの撤去と本部内の基礎，基礎梁等設置に係る立会・発掘調査を実施した．本事業は昨年度に引き続き実施されたもので，調査区を４区に分けている．すなわち建物西側の掘削範囲がⅠ区，建物南側がⅡ区，建物東側がⅢ区，建物内の掘削範囲がⅣ区である．本地点の掘削範囲は，後述する1430・1436・1437調査地点と重複しているため，これらの調査地点でも上記区分にならってⅠ～Ⅳ区の名称を使用し，必要に応じて個々の調査区に枝番号を付した．

2014年度は，Ⅰ区①およびⅡ区の樹木抜根と移植，Ⅱ区②の浄化槽の撤去，Ⅳ区①・②の現代埋土除去に伴う立会を実施しており，これについては前年度の年報に詳細を記載した．今年度は建物西側のⅠ区②と建物東側のⅢ区①，建物内のⅣ区①・②について立会および発掘調査を実施した．

2014年度の３月末時点で，本調査地点のⅣ区②，Ⅱ区⑨において，地表下約0.3～0.4mで赤煉瓦基礎が検出された．この赤煉瓦基礎の由来を大学沿革史等で調べたところ，熊本大学工学部の前身である熊本高等工業学校の初代本館（以下旧本館）の建物基礎であることが明らかとなった．旧本館は1908年に竣工した木造二階建ての校舎で，建物下部と基礎部分には赤煉瓦を使用していた．建物内には階段教室や事務室，貴賓室，標本室，各種分析室などが設けられ，熊本高等工業学校の中核を担う建物だったが，1923年に火事によって全焼してしまった．この火事の様子は当時の『九州日日新聞』にも大きく掲載されており，また大学史上でも事件として取り上げられている．その後，1923年９月１日に起きた関東大震災による赤煉瓦建築の衰退を経て，1925年に現在の鉄筋コンクリート三階建ての建物が竣工した経緯がある．以上の点から，今回検出された赤煉瓦基礎は地域や大学にとってとりわけ重要な遺構と判断した．また，各調査地点では，地表下0.4～0.7mで須恵器や土師器の出土する

図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



古代の包含層と思わしき黒褐色土が検出され，施工の深い場所では古代の遺構の掘削が生じる可能性があった．そのため，４月２日には熊本市教育委員会文化振興課および熊本県教育庁文化課に現地の視察を受け，本調査地点と1430・1436・1437調査地点を合わせて，発掘調査へ切り替えることとなった．

Ⅰ区②では舗装，土間，縁石，側溝等撤去に伴う掘削をおこなった．東西約4.5m，南北約25mの範囲の土間を重機で掘削したところ，調査区北側から比較的残りの良い状態で，南北６m程の範囲に赤煉瓦基礎が検出された．本基礎は円礫を多く含むコンクリート土台の上に２段・１段と３段分の根積みが確認できた．最上段に赤煉瓦同士を接着するためのモルタルが残ることから，段数は４段以上あり，上部は破壊を受けたことがわかる．また，建物西壁に沿うようにして，現在の建物基礎の掘方埋土中から大量の赤煉瓦とコンクリートの破片が散在した状態で検出された．この状況は，現在の建物を建てる際に破壊した赤煉瓦とコンクリートを，掘方中に大量に廃棄したものと考えられる．北側の赤煉瓦基礎部分は，この掘方から西へ0.5m程張り出しているため破壊を免れたとみられる．赤煉瓦基礎や掘方による破壊を受けた

写真80　Ⅰ区②北側赤煉瓦基礎検出状況（北西より）

写真81　Ⅰ区②南側基礎掘方埋土中破片検出状況（北より）

写真82　Ⅰ区②南側完掘状況（北より）

写真83　Ⅰ区②北側古代遺構完掘状況（南より）

箇所は，簡略的な測量と検出状況の撮影を実施した．また，工事の施工上，赤煉瓦基礎の最上段１段分を撤去する必要があったため，重機により下段まで破壊されぬよう，人力によって１段分の赤煉瓦を取り上げ，近代遺構の調査を終了した．

本調査区は本部に関連する排給水や配電の管・桝が多く設けられており，これらの掘方によって遺構面より下位まで部分的に撹乱を受けていた．これら現代埋土を除去したところ，調査区北側では地表下0.4m程で古代の包含層である黒褐色土が検出された．一方，調査区南側では，地表下0.4m程で陶磁器を含む暗褐色土が検出されており，近世あるいは近代の包含層と想定できることから，調査区中央付近から南側にむけて地形が傾斜しているとみられた．本調査区の北側5.7m×3.5m程は，施工予定深度が地表下0.7mであり，掘削が古代の遺構まで及ぶため，この範囲の発掘調査を実施した．昨年度から停滞していた樹木（イヌマキ）の抜根は，包含層を掘削した段階で，チェーンソウで根切りし，重機により撤去した．遺構面は標高約18.35mで検出し，遺構として複数のピットと，竈付きの竪穴住居が１基検出された．遺物として土師器や須恵器が出土している．

Ⅳ区①・②は，それぞれ建物内の東西翼において２×7.5mの範囲のコンクリート床を撤去したのち，床下に2.5×7.5mの調査区を設けた．また，この調査区を北側へ延長し，本部の北側廊下の直下にも２m×3.5mの調査区を設けた．施工深度が1.5mと深いため，昨年度検出した赤煉瓦基礎の調査と，古代の遺構の調査の必要が生じた．Ⅳ区①・②では，地表面から５～10cm程度堆積した砂埃状の堆積土を除去したところ，その下位に灰と炭片が混じる黄褐土が薄く堆積することを確認できた．この土層は1925年に竣工した現在の建物の基礎掘方に切られる一方，赤煉瓦基礎の上に堆積することから，1923年に旧本館が焼失した際の残土の可能性が高い．このことを示すように，炭灰混土からは，ガラスや鉄釘，被熱した木片など木造校舎に関連する遺物が出土している．また，各調査区では独立した赤煉瓦基礎が検出された他，同じく柱などの基礎の役割を持つであろう0.5m四方のコンクリート板が確認された．このうちⅣ区②で検出された３基の赤煉瓦基礎はコンクリートの土台の上に２

写真84　Ⅳ区①炭灰混土検出状況（東より）

写真85　Ⅳ区①赤煉瓦基礎検出状況（南東より）

写真86　Ⅳ区①完掘状況（北より）

写真87　Ⅳ区①北側廊下部分完掘状況（西より）

写真88　Ⅳ区②赤煉瓦基礎検出状況（南より）

写真89　Ⅳ区②赤煉瓦基礎下栗石検出状況（東より）

段・2段・2段と6段分の根積みが認められ，最下段で0.7m×0.7mを測る．この赤煉瓦を支えるコンクリートの土台が0.2m間隔で東西に配されており，旧本館の部屋壁を支える木柱の基礎と想定される．いずれの赤煉瓦基礎も図面・写真による簡易な記録の後，赤煉瓦を人力により取り外した．さらにコンクリートの土台は削岩機によって撤去し，その下部構造を確認したところ，拳大の円礫が東西3基の赤煉瓦の下部に敷き詰められている様子を確認できた．

写真90　Ⅳ区②近代遺構完掘状況（南より）

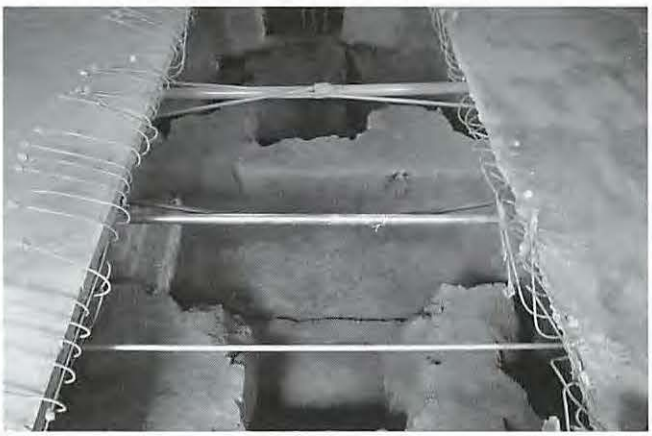


写真91　Ⅳ区②完掘状況（北より）

写真92　Ⅳ区②北側廊下部分完掘状況（東より）

写真93　Ⅳ区①南側古代遺構完掘状況（北西より）

調査区南北端では，Ⅱ区②の状況と同じく，現在の建物基礎の掘方による破壊を受けており，掘方埋土中からは赤煉瓦やコンクリートの破片が大量に出土した．調査区北端の廊下直下の掘削では，これら破片を撤去した後，文化層の確認をおこなったが，古代の遺構面まで削平されており，遺構や遺物の検出はなかった．

Ⅳ区①・②では近代の赤煉瓦基礎の調査後，地表下0.25m，標高約18.6mで古代の包含層を検出できた．しかし，遺構面の検出に際しては，建物内部のため水分が遮断され，土壌が乾燥していたため，色調による明確な差を見出すことが困難であった．そのため霧吹きによる水まきを実施し，色調や土質による差を捉えたところ，標高約18.4mで遺構面を検出できた．Ⅳ区①・②の各地区で複数のピットを，Ⅳ区①では竪穴住居1基を検出することができた．ただし，竪穴住居は，現存の建物基礎や赤煉瓦基礎により大部分が破壊を受けていた．出土遺物として土師器や須恵器が出土した．

また，昨年度の1310調査地点での調査成果以来，古代の遺構面を形成する褐色土より下位で，縄文時代の文化層の有無を確認する必要があったため，Ⅳ区①・②について部分的な掘り下げをおこなったが，遺構面より下位の土層から縄文土器が出土することはなかった．

2．（黒髪南）本部屋外スロープ取設工事に伴う立会・発掘調査（1430）

＜調査期間＞

2014年12月12日～2015年7月24日

＜調査面積＞

195.7㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本部の東西への塗装，土間，側溝，雨水排水管，雨水

桝，屋外スロープなどの設置に係る立会・発掘調査を実施した．本調査地点は建物西側のⅠ区，東側のⅢ区に分かれており，1429・1437調査地点の調査範囲と重複している．このうちⅠ区の調査成果については1429調査地点の報告に記載した．またⅢ区の調査成果については，説明の混乱を避けるためこちらに記載した．建物東側のⅢ区①は，1437調査地点の調査範囲と重複しているが，掘削深度がより深いためこちらに記載する．

本調査区は本部の東側に位置し，南北約23m，東西約４mの調査区に，排水管に伴う掘削のため，調査区北側に2.1m×1.3m，南側に４m×0.75mの調査区が付随する．掘削予定深度は北端で0.6m，南端で0.9m，また，スロープ設置個所である調査区西側建物沿いは0.4m，中央部は0.2mであった．本調査区でも，Ⅰ区と同様に，赤煉瓦基礎が地表下0.3～0.4mで，３箇所に検出された．一つは調査区北端から4.5m南側で東西方向に軸を持つ赤煉瓦基礎が2.4m程検出された．既存の配管により，一部が破壊されているが，３段分の根積みが確認できた．

写真94　Ⅲ区①重機掘削作業風景（北より）

写真95　Ⅲ区①北側壁面部分赤煉瓦基礎検出状況（東より）

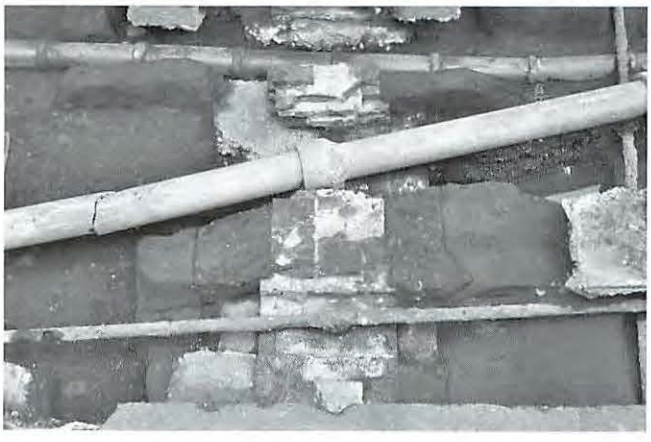


写真96　Ⅲ区①南側壁面部分赤煉瓦基礎検出状況（東より）

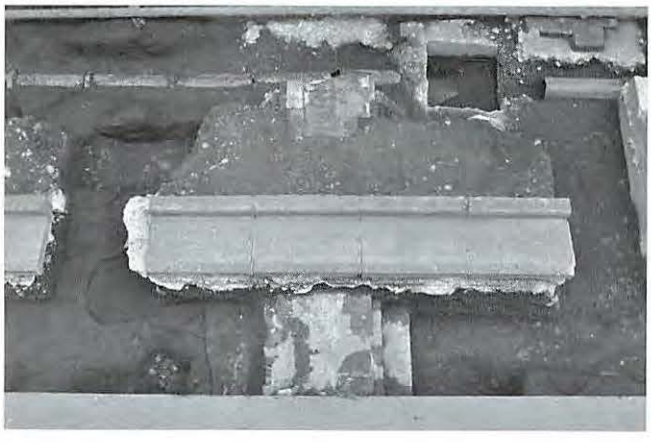


写真97　Ⅲ区①独立赤煉瓦基礎検出状況（東より）

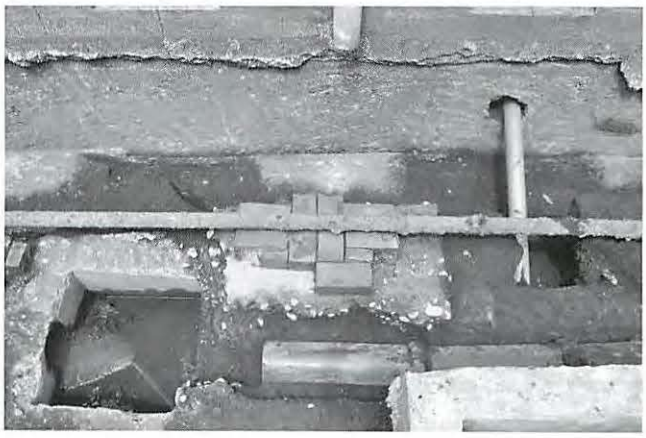


写真98　Ⅲ区①完掘状況（南より）

写真99　Ⅲ区①完掘状況（北より）

また，この赤煉瓦基礎に対応する東西方向に軸を持つ赤煉瓦基礎が，9.6m南の位置でも検出されており，両基礎がそれぞれ熊本高等工業学校旧本館の東翼の南北壁を支えた基礎と想定できる．また，調査区北端から13.5m程南側では，1429調査地点のⅣ区でみられたような独立した赤煉瓦基礎が１基検出できた．いずれも掘方を検出し，埋土掘削した上で簡易な測量を実施している．本調査区では，古代の包含層はほとんど削平されていたが，遺構面を地表下0.4～0.5mで検出した．古代の遺構として，調査区南側に複数のピットと，東西方向の溝を検出した．遺物として陶磁器，須恵器，鉄器，古銭などが出土した．

3．（黒髪南）本部エレベーター棟増築工事に伴う立会・発掘調査（1436）

＜調査期間＞

2015年１月７日～６月２日

＜調査面積＞

60.3㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本部南側へのエレベーター棟増築に伴う基礎工事と地盤改良に係る立会・発掘調査を実施した．

施工上，基礎工事で6.7m×９mの範囲を地表下0.7mまで掘削した後，地盤改良で基礎工事の調査範囲内の５m×８m，深さ5.5mまで杭打ちを実施する予定であった．また基礎工事の西側および南側は，1437調査地点の排水管設置に伴う掘削範囲と接するため，これら３つの工事範囲をⅡ区⑨と総称し調査した．Ⅱ区⑨の周囲に設けられた1437調査地点の排水管設置に伴う掘削範囲についても，1436調査地点の調査区と連結するため，こちらに詳細を記載する．Ⅱ区⑨の北東側に3.8m×1.3mの調査区を設けⅡ区⑩とした．Ⅱ区⑩の東端から南側へ延びる4.7m×１mの調査区をⅡ区⑪とした．Ⅱ区⑨の南東角から東方向へ延びる約９m×1.5mの調査区をⅡ区⑫とした．

昨年度の調査中，Ⅱ区⑨南壁付近で，地表下0.3～0.4mから５・６段積まれた赤煉瓦基礎を検出していた．今年度，Ⅱ区⑩～⑫と調査区が拡大し，精査をおこなった結果，赤煉瓦基礎の構造と配置を把握することができた．

Ⅱ区⑨の南端からⅡ区⑫にかけては，東西方向に約17.2mの範囲で赤煉瓦基礎が検出された．赤煉瓦基礎は

写真100　Ⅱ区⑨近代遺構検出状況（北より）

写真101　Ⅱ区⑫赤煉瓦基礎検出状況（南西より）

写真102　Ⅱ区⑨階段部分検出状況（西より）

写真103　Ⅱ区⑫灰炭混土出土遺物検出状況（南より）

Ⅱ区⑫の東端から約1.5mの位置で屈曲し，調査区北壁に向かって伸びている．これらは熊本高等工業学校旧本館の南側張り出し部の壁の基礎と想定される．またこの基礎は，Ⅱ区⑨南西角から東へ5.2mと7.0mの位置でコーナーを持ち，調査区南壁に向かって伸びている．東西約1.8mの張り出し部で，旧本館南側の階段の基礎だと想定できる．これら赤煉瓦基礎の直上にはⅣ区でみられたような灰炭混土が5㎝程堆積しており，土中からは溶けたガラスや鉄釘，青銅破片，近代陶磁器片，瓦片，碁石，硯なども検出された．いずれも1923年の旧本館焼失の際の残留物と考えられる．

写真104　Ⅱ区⑨独立赤煉瓦基礎検出状況（東より）

写真105　Ⅱ区⑨通し柱部分赤煉瓦基礎検出状況（南より）

写真106　Ⅱ区⑪コンクリート板基礎検出状況（南より）

写真107　Ⅱ区⑨近代遺構完掘状況（南より）

写真108　Ⅱ区⑨完掘状況（北より）

この他１辺0.7m程の赤煉瓦の独立基礎が３基検出された．また，後世の撹乱により取り壊された赤煉瓦基礎の掘方が３基検出された．これらが階段部分の基礎の南北中心軸から東西1.5mの間隔を設けて北側に配置されており，２基が南北方向に３列，計６基の独立した赤煉瓦基礎が存在したことが確認できた．いずれも南側の階段へ通じる旧本館廊下部分の東西の壁を支えた木柱の基礎と想定できる．また，Ⅱ区⑨南西角から東に3.2m，北に1.1mの地点では，他の独立基礎より一回り大きな１m×0.9mの赤煉瓦基礎を１基検出した．検出位置と構造から，建物一階から二階にかけての通し柱の基礎と考えられる．このほか，Ⅱ区⑩では調査区西側に赤煉瓦基礎のみ撤去されたコンクリートの土台が１基検出され，Ⅱ区⑪では調査区西壁に沿って，1.5m間隔で0.4m四方の２基のコンクリート板が検出された．いずれも旧本館の基礎と考えられる．Ⅱ区⑨では地盤改良部分に関して，古代の包含層および遺構の掘削を実施した．Ⅱ区⑨の広い範囲で後世の撹乱が認められ，古代の包含層や遺構の残存はごくわずかであった．遺構として古代の住居の南

西角隅や複数のピットが検出されている．遺物として須恵器や土師器が出土した．

4．（黒髪南）本部改修その他機械設備工事に伴う立会・発掘調査（1437）

＜調査期間＞

2015年１月14日～９月７日

＜調査面積＞

102.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本部周辺の給水・排水管の新設に係る立会・発掘調査を実施した．調査は1429調査地点で設定したⅠ・Ⅱ・Ⅲ区に分かれており，1429・1430・1436調査地点の各調査範囲と重複する部分が多い．Ⅰ区は1429調査地点のⅠ区②とほぼ重複しているため，そちらに調査成果を記載した．Ⅱ区の掘削範囲は1436調査地点のⅡ区⑨の周囲であり，混乱を避けるため，そちらに調査成果を記載した．Ⅲ区①も1430調査地点と大部分が重複しているため，上記と同様の理由でそちらに記載した．

5．（黒髪南）黒髪南Ｃ７　６階実験室電源その他工事に伴う立会調査（1506）

＜調査期間＞

2015年６月29日

＜調査面積＞

40.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

黒髪南Ｃ７の６階実験室のアースを設置する工事に伴う立会調査である．

写真109　作業風景（南西より）

黒髪南Ｃ７の南東隅から東に2.7m，南へ0.8mの所を基点に，建物と平行に，西へ9.3m，幅0.8mの掘削をおこなった．掘削深度は地表下0.7mであった．掘削したのは現代埋土のみであった．当該部分の掘削をおこない，アース設置が行えるとのことであったので，立会は以上をもって終了した．遺構・遺物の検出はなかった．

写真110　掘削状況（西より）

写真111　南東部掘削状況（南東より）

6．（黒髪南他）台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査（1510）

＜調査期間＞

2015年９月15日

＜調査面積＞

42.3㎡（39.7㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号により倒れた樹木の復旧作業のうち，黒髪地区の所在する７本の樹木に対する復旧作業に伴う立会調査である．黒髪南地区では６箇所（№①～⑥）に関して掘削，立会をおこなった．

№①～④は工学部１号館の中央南の中庭に存在する．

東よりNo.①，②，③，③の北側をNo.④とした．

No.①は樹木を中心に，2.8mの円圏内に，幅0.5～1.4mの溝を掘るものであった．深さは地表下0.6mまで掘った．掘削したのは全て現代埋土であった．

No.②は2.7×2.7mの範囲に，0.4～1.2mの溝を掘削するものであった．溝の深さは地表下0.5m．掘削した土は現代埋土であった．

No.③は小さな石碑のすぐ西隣の樹木を対象とした掘削箇所であった．東西2.5m，南北2.3mの範囲において，幅約0.4～0.7mの溝を，深さ地表下0.45mまで掘るものであった．掘削した土はや軟らかい現代埋土のみであった．

No.④はNo.③北側に所在する．東西3.9m，南北3.1mの範囲に，幅0.7～1.2mの溝を方形に掘削した．深さは地表下0.65mである．掘削したのは現代埋土であった．

No.⑤は工学部１号館の南西隅より，西に５m付近に存在する樹木の周りを掘削するものであった．東西2.2m，南北2.5mの範囲において，幅0.25～0.8mの溝を掘った．

写真112　No.①～④調査区作業風景（南東より）

写真113　No.①掘削状況（南東より）

写真114　No.②掘削状況（南より）

写真115　No.③掘削状況（南より）

写真116　No.④掘削状況（南より）

写真117　No.⑤作業風景（南西より）

深さは地表下0.7mまでである．掘削した土は撹乱および現代埋土であった．

No.⑥は理学部２号館中央北側の出入口前のスロープの西側にある樹木を中心としたものである．範囲は東西2.0m，南北2.6mほどあり，樹木を中心に，その北側，東側，南側にかけてコの字状に幅0.4～0.8mの溝を掘削した．溝の深さは地表下0.45mであった．掘削した土は，上部が砕石，下部が現代埋土であった．

No.①～⑥まで全てにおいて，遺構・遺物の検出はなかった．

写真118　No.⑤掘削状況（南より）

写真119　No.⑥作業風景（西より）

写真120　No.⑥掘削状況（北より）

７．（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（黒髪）に伴う立会調査（1520）

＜調査期間＞

2015年１月12日

＜調査面積＞

172.5㎡（111.5㎡　黒髪北地区も含む）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

電力デマンド等計測システム取設工事（黒髪）に伴う立会調査である．本工事は10箇所の掘削からなるが，教育学部東教場も含まれていたため，立会が必要なのは８箇所であった．黒髪北地区にはNo.①～⑥の６箇所，黒髪南地区にはNo.⑦・⑧の２箇所ある．ここでは黒髪南地区の２箇所を報告する．

No.⑦は共用棟黒髪４の西辺と総合情報統括センターの北辺の間に配線を設置する工事箇所であった．掘削部分は幅0.4m，長さは全長15mであった．掘削部分は共用

写真121　No.⑦作業風景（南西より）

写真122　No.⑦共用棟黒髪４西側掘削状況（南より）

棟黒髪４の西辺付近では南北方向に直線的に延び，南端で屈折して南東に方向を変え，総合情報統括センター北辺に至るものであった．共用棟黒髪４西辺付近では地表下0.5mまで掘削したが，掘削した土は上半0.35mまでは現代埋土，下半0.5mまでは近代の暗褐色土の硬化したものであった．総合情報統括センター北側では東西，南北方向に走る配管が多く存在した．地表した0.65mまで掘削したが，掘ったのは現代埋土であった．

No.⑧は水理実験棟の西辺から南下し，南にあるポンプ室へ接続する北半と，ポンプ室南辺から南の桝に向かって南側に延びる南半の掘削部分からなっていた．北半は南西隅のマンホールを基点に，水理実験棟西側の犬走に沿って南下するもので，幅0.5m，長さは11.6mあった．地表下0.4～0.5m掘削したが，全て現代埋土であった．南半はポンプ室南辺から幅0.4m，長さ5.2m，深さ0.4mを直線的に掘削した．

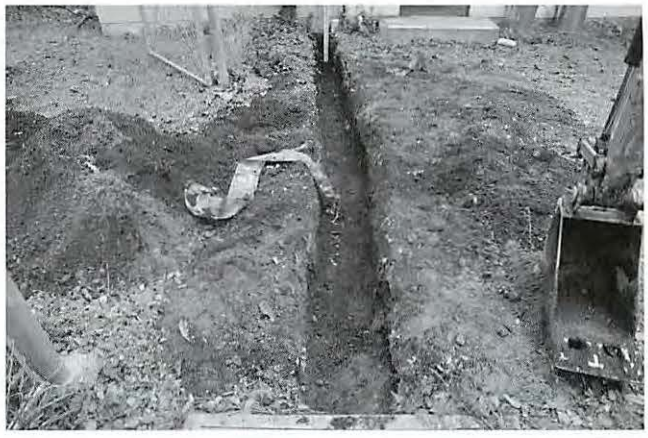
No.⑦・⑧とも遺構・遺物の検出はなかった．

写真123　No.⑦総合情報統括センター棟北側掘削状況（西より）

写真124　No.⑧作業風景（北西より）

写真125　No.⑧北半掘削状況（北より）

写真126　No.⑧南半掘削終了（南より）



８．（黒髪南）Ｗ７排水設備改修工事に伴う立会調査（1523）

＜調査期間＞

2016年３月11日

＜調査面積＞

10.6㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区の中央工場Ｂ棟（黒髪南Ｗ７）から，3.65m北側の既存の雨水管に，排水施設をつなげる工事伴う立会調査である．調査した４箇所はみなトレンチ状をな

写真127　作業風景（北西より）

す.

西から，1.3×1.9mの範囲を深さに0.40～0.45mまで，0.80×4.45mの範囲を深さ0.3～0.4mまで，0.80×3.65mの範囲を深さ0.3～0.45mまで，0.70×3.65mの範囲を深さ0.30～0.45mまで掘削した.

いずれの掘削も現代埋土内におさまっており，文化層への影響はなく，遺構・遺物の検出はなかった.

写真128　トレンチ掘削状況（北より）

Ⅱ－3　本荘北地区　（図5参照）

1．66kV 銀座橋熊大医学部線鉛被 OF ケーブル改修工事に伴う立会調査（1423）

＜調査期間＞

2015年8月17・18・24・27，9月2日

＜調査面積＞

148.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

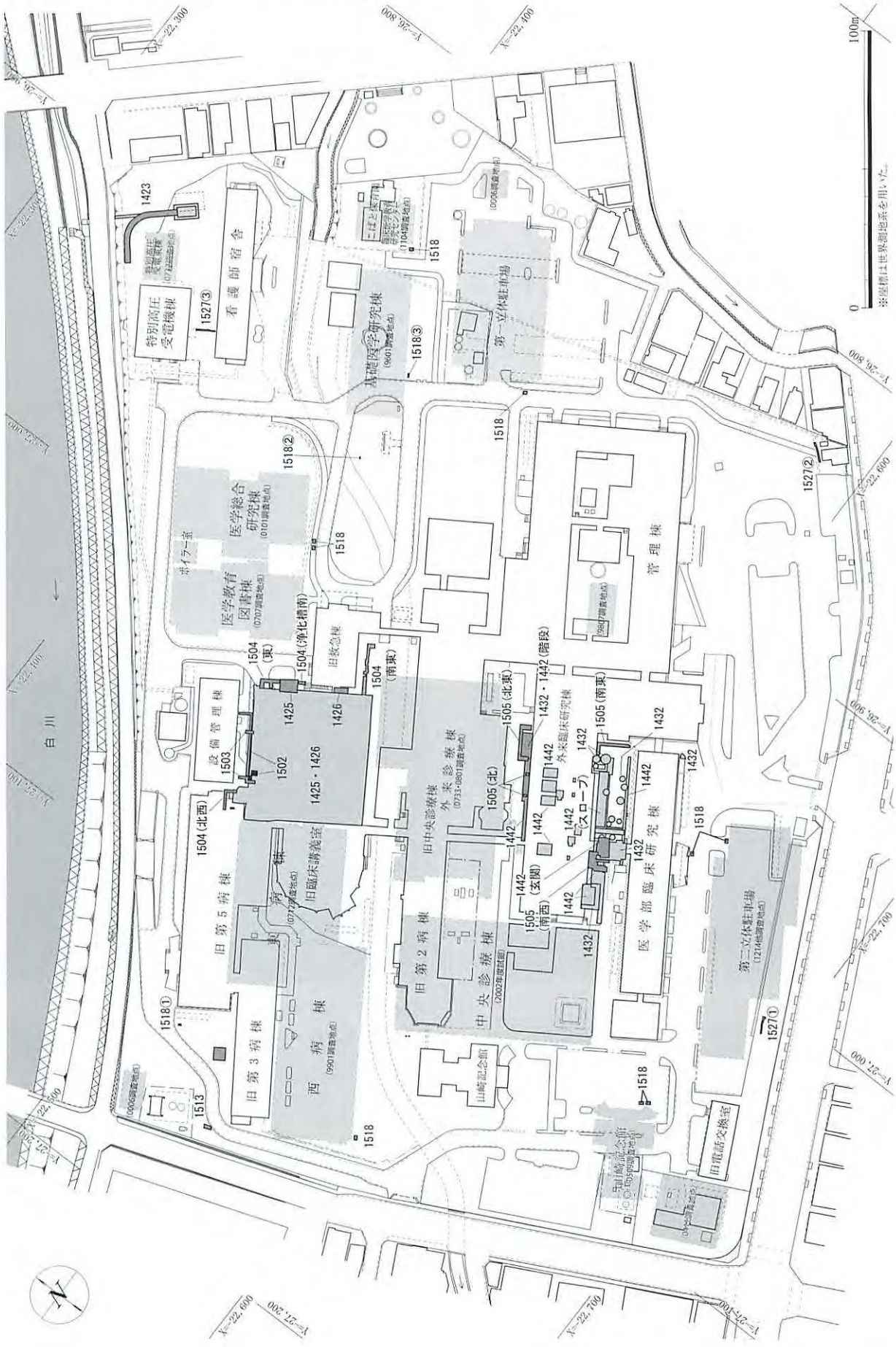
＜調査概要・結果＞

熊本大学医学部から銀座橋付近に，鉛被ＯＦケーブルを設置する工事に伴う立会調査である．調査地点は特別高圧受電東棟の，東側から北側にかけてであり，掘方範囲の平面形は，くの字型に曲がっていた．幅は1.2～1.4mで，南北軸16m，東西軸19mの範囲を地表から0.75～2.10mの深さで重機掘削した．同地点は2014年度の調査を引き継いでいる．前調査箇所の竪坑北側から掘削を再開した．コンクリートまじりの撹乱埋土を除去したところ竪坑北側の矢板から３mの範囲に，地山と思われる砂

写真129　作業風景（南西より）

写真130　遺構検出状況（東より）

図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）



層を確認した．詳しく調べると，竪坑北側の矢板から北に1.4mまで暗褐色砂層，1.4m～2.0mまでにぶい黄褐色砂層，2.0～3.0mに黄褐色砂層が撹乱埋土に斜めに削平された形で存在していた．それぞれ検出した深さは暗褐色砂層が2.1m，にぶい黄褐色砂層が2.10m～2.00m，黄褐色砂層が2.00m～1.95mであった．ここで確認した暗褐色砂層は，にぶい黄褐色砂層を切る形で検出されたため遺構であると思われる．検出面が既定の2.1mに達していたため掘削はおこなっていないが，上端が北東－南西の方向軸であることから，2014年度検出された溝の上端部分の可能性がある．その後掘削深度は，掘削を再開した部分から徐々に浅くしていき，竪坑から北側12mにかけて地表下１mとした．北側９m付近から12m付近の範囲で地表下0.65～0.75mにかけコンクリートを含まない暗褐色砂質土が確認された．包含層の可能性があったため慎重に掘削したが下層から礫・ガラス・ブロック状のものを多く含む層を確認したため新しいものと判断した．この層は，2014年度確認された「掘り起こした発生土」と思われる．南北軸の残りの４m，東西軸の東から14mは同様の礫・ガラス・ブロック状のものを多く含む層をベースに，さらに上からの撹乱が入る状況であった．東西軸の残りの５mの範囲は，電気配管のための山砂であった．遺物は南北軸の北端付近から近代の磁器片を検出している．

２．（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（地下躯体撤去・擁壁設置）に伴う立会調査（1425）

＜調査期間＞

2015年７月29日

＜調査面積＞

1,655.0㎡（20.2㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

昨年度実施区の東端に残っていた防火水槽の撤去工事に伴って実施した立会調査である．4.4m×4.5mの平面形を有する防火水槽の西側は昨年度掘削済であるため，防火水槽の北・東・南辺において，幅1.4～1.5m掘削した．北辺は地表下3.5m，南辺は同3.2mで防火水槽の下底面が検出された．また東辺は地表下0.8mで管が検出されたため，管上面で掘削を終了したが，それ以下はコンクリートの斫りで防火水槽は除去できるので，0.8m

写真131　南北軸掘削状況（北より）

写真132　東西軸掘削状況（北東より）

写真133　作業風景（南より）

写真134　掘削状況（西より）

までの掘削で終了となった．工事による掘削は防火水槽設置時の埋土の掘削だけですんだ．北辺の掘削範囲の北壁は地表下1.2mで黄褐色砂質土が露出したが，工事の掘削はそこまでは及ばなかった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真135　北辺包含層検出状況（南より）

3．（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（本体工事）に伴う立会調査（1426）

＜調査期間＞

2015年11月２日

＜調査面積＞

2,141.0㎡（20.1㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

昨年度に引き続く立会調査で，臨床研究棟本体の東端，旧救急棟と接する部分を深く掘削する工事に伴い実施した調査である．

旧救急棟の西側に，東西4.2m，南北4.8mの方形の範囲を地表下1.2mまで掘削した．掘削したのは旧６病棟および旧救急棟建設時の埋め土と思われる撹乱土であり，

写真136　作業風景（南西より）

遺構・遺物の検出はなかった．

写真137　掘削状況（北東より）

写真138　掘削状況（南より）

4．（医病）管理棟改修その他工事（撤去）に伴う立会調査（1432）

＜調査期間＞

2015年６月24日

＜調査面積＞

279.7㎡（5.2㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

外来臨床研究棟を管理棟に改修するため，外来臨床研究棟内およびその周辺に存在する不要な構造物を撤去する工事に伴い実施した立会である．本調査は前年度に引き続き実施したもので，今年度の調査は調査地区の北東側に位置するトラップを撤去する工事に伴うものであった．調査は，同じく管理棟改修その他工事に伴う1442調査地点と合わせて実施した．

対象箇所は2.9×1.8mの範囲であった．掘削したのは現代埋土のみであった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真139　作業風景（南東より）

写真140　掘削状況（北より）

5．（医病）管理棟改修その他工事に伴う立会調査（1442）

＜調査期間＞

2015年６月22日～７月３日

＜調査面積＞

563.4㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

外来臨床研究棟を管理棟に改修する工事に伴う立会である．立会箇所は建物南側の玄関部分，その両側のスロープ部分，建物北西側の屋外階段部分からなる．

玄関部分は東西7.0m，南北5.5mの範囲を掘削した．大部分は撹乱埋土であったが，地表下0.5mで，掘削部の東側に近代～現代の土が存在していることを確認した．さらに慎重に掘り下げたところ，地表下0.6mで近代～現代の焼土層が確認できた．焼土層を記録した後，さらに下げたところ，地表下1.0mで古代の包含層が確認でき，遺構の存在も把握できた．そこで熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，立会調査の中で記録をおこなうことになった．当該箇所についてはわずかな面積であったが，溝２条，竪穴住居３基，ピットが検出された．

スロープ部分は玄関部分の東西両側に存在するものである．玄関部分の東側では建物南側の塀から1.0m，2.3m南の位置で，それぞれ3.0×3.0m，1.7×1.9mの枡を深さ0.5mまで掘削した．掘削したのはいずれも近代～現代の土であった．掘削範囲の北側は建物に近いためか現代の撹乱土が，幅1.5～2.0mが存在していた．玄関部分の西側でも，2.2×1.8m，1.8×1.5mの範囲を，地表下0.5

写真141　玄関部分作業風景（南東より）

写真142　玄関部分遺構確認状況（南より）

写真143　玄関部分溝完掘状況（南より）

mまで掘削した．いずれも現代埋土であった．当該箇所においては遺構・遺物の検出はなかった．そこでスロープ部については全面的に施工を了解した．

建物北東側の屋外階段部分は建物の北辺に接して，東西幅9.5m，南北3.8mの範囲が対象域であった．対象域の東辺，西辺においてトレンチ状に掘削した．東辺トレンチは幅1.8m，長さ3.7mの範囲を，深さ地表下2.0mまで掘削した．下部において，ヒューム管，ガス管，その他配管が確認された．掘削したのは現代埋土のみであった．西辺トレンチは幅1.9m，長さ3.8mの範囲を，深さ地表下2.0mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であった．東辺・西辺トレンチがいずれも現代の埋土であったので，その間は全て撹乱埋土と考えられた．当該箇所については遺構・遺物の検出はなかった．そこで掘削していない真ん中も含め，全体の掘削を了承した．

写真144　玄関部分遺構完掘状況（南より）

写真145　東側スロープ部分掘削状況（西より）

写真146　西側スロープ部分掘削状況（南より）

写真147　階段部分掘削状況（西より）

6．（本荘北）臨床研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（1502）

＜調査期間＞

2015年５月18日

＜調査面積＞

77.8㎡（33.6㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

臨床研究棟本体の北端，設備管理棟との間に配管をする工事に伴う立会であった．西端におけるハンドホール２個の設置および，ハンドホールと設備管理棟を結ぶ東西に延びるクランク状の配管設置のための管路掘削からなっていた．

写真148　作業風景（西より）

ハンドホールは東側からハンドホール１，２とした．ハンドホール１は1.8×1.8mの規模を有し，地表下1.0mまで掘削した．掘削したのは全て現代埋土であった．

ハンドホール２はハンドホール１の西側に接するものであった．南北2.2m，南北1.8m，深さ地表下1.4mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であったが，最下底面の北隅において，0.29×0.28mの範囲に地山と思われる黄褐色砂質土が検出された．

管路はハンドホール１の東端から東に長さ19.5m，幅1.1m掘削し，東端において，方向を南北に変え，長さ3.6 m，幅1.4m掘削した．掘削深度は地表下0.9mであった．掘削したのは現代埋土であった．管路のうち，南北方向の管路では，下底面にガス管の存在が確認された．

遺構・遺物の検出はなかった．続きは2016年度継続実施する予定である．

写真149　ハンドホール１掘削状況（西より）

写真150　ハンドホール２掘削状況（西より）

写真151　管路掘削状況（西より）

７．（本荘北）臨床研究棟新営機械設備（その２）工事に伴う立会調査（1503）

＜調査期間＞

2015年５月20・21日

＜調査面積＞

19.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

臨床研究棟本体の北端，設備管理棟との間に配管を設置する工事に伴う立会である．配管管路は２本あった．いずれも北側にある設備管理棟の南端から南北方向に延び，臨床研究棟につながるものである．

西側配管は幅0.9m，長さ8.0mを測り，中間で屈折し，クランク状をなすものであった．屈折部分を中央部分とし，それ以北の北部分，以南を南部分とする．北部分は地表下0.65mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であったが，北縁には東西に走る水道管があり，それ以外の部分には近世以降の土の存在が確認された．中央部分も東西に走る水道管が埋設されていた．一部コンクリートがある部分があり，そこは地表下0.7mまでの掘削となったが，それ以外の部分は地表下0.9mまで掘削した．掘削したのは全て現代埋土であった．南部分は地表下0.85mでコンクリートが広く検出された．掘削したのは現代埋土であった．施工はその深度でできるとのことであったので，掘削は終了した．

写真152　作業風景（南東より）

東側配管は幅1.1m，長さ1.9m，南北に直線的に掘るものであった．工事対象域内は撹乱が著しかったが，対象域の北西隅には地表下0.22mで包含層が確認された．しかし包含層のかからない範囲のみを掘削すれば施工はできるとのことであったので，包含層は残したまま，それ以外の部分を地表下1.0mまで掘り下げた．掘削したのは全て現代埋土であった．

2箇所の掘削部分ともに遺構の検出はなかった．遺物としては土師器や瓦が少量出土した．

写真153　西側配管掘削状況（南より）

写真154　東側配管掘削状況（南より）

8．（本荘北）臨床研究棟新営機械設備（その3）工事に伴う立会調査（1504）

＜調査期間＞

2015年5月18～28日，6月4日，7月6～28日

＜調査面積＞

485.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

臨床研究棟本体の周囲に配管を設置する工事に伴う立会である．設備管理棟の西側に所在する北西部，設備管理棟と旧救急棟の中間に所在する東部，旧救急棟の南側に所在する南東部の3箇所からなる．

北西部は，南北に走る共同溝が付近にあり，幅1.0m，長さ3.0mの直線的な掘削部分と，幅0.8m，総延長20.5mのL字状に曲がる掘削部分があった．前者は地表下1.1m掘削し，共同溝のコンクリートが露出したので，掘削を終了した．掘削した土は共同溝の埋土であった．L字状の掘削部分も共同溝や配管と重なっており，大部分は撹乱埋土であった．後者はL字のコーナー部分を中

写真155　北西部作業風景（東より）

写真156　北西部L字状掘削部長辺掘削状況（西より）

写真157　北西部L字状掘削部遺構完掘状況（北より）

心に，掘削範囲の側面付近に包含層の残存が認められた．そこで断面を精査し，遺構確認をおこなったところ，溝や竪穴住居と思われる覆土の存在が確認できた．こうした覆土は工事に際し，削平することになるとのことであったので，熊本市教育委員会文化振興課に連絡し，立会調査の中で記録することになった．調査の結果，このＬ字状の掘削部分において，溝１条，竪穴住居２基，土坑１基，ピットが検出された．

東部に調査は，幅1.2～1.5m，総延長10.8mのＬ字状に曲がる掘削部と，Ｌ字の長辺の中間から西へ派生する1.2×2.0mの直線状分岐部，浄化槽南掘削部からなる．Ｌ字状掘削部では地表下0.8mで建物基礎を２基を確認した．またＬ字状掘削部の長辺では地表下1.2mで溝１条やピットの存在を確認した．ピットの中には南北に並

写真158　東部掘削作業風景（北より）

写真159　東部短辺建物基礎掘削状況（東より）

写真160　東部長辺遺構完掘状況（南より）

写真161　東部分岐部掘削状況（東より）

写真162　東部浄化槽南掘削部掘削状況（北より）

写真163　南東部作業風景（西より）

ぶ径0.8mほどの掘り込み２基が検出され，古代の掘立柱建物の柱穴と考えられた．直線状分岐部では，地表下0.8mで近世以降の砂を含む暗褐色土が検出され，掘削底面の地表下1.0mまでそれが続いていることが確認された．浄化槽南掘削部はＬ字状掘削部南端にある浄化槽を避けて掘削された部分で，南側に所在する旧救急棟付近に至るものであった．地表下0.9mまで下げたが，現代埋土，ヒューム管，コンクリートが確認されただけで，遺構・遺物の検出はなく，掘削は終了した．

写真164　南東部遺構完掘状況（北より）

写真165　南東部コンクリート検出状況（西より）

写真166　南東部東端掘削状況（南より）

南東部は旧救急棟の建物南辺から南へ0.5～0.8mの位置に，旧救急棟にほぼ平行して幅0.8～1.4m，東西長約17m掘削した．掘削部の西端は1426調査地点の掘削範囲と接続し，東端は旧救急棟南東隅より西へ5.5mの位置にある雨水桝に接していた．また東端はさらに南へ折れ曲がり，幅1.5m，長さ1.9m掘削し，南端の桝に接続していた．調査において，旧救急棟の南側には基礎フーチングがあり，フーチングは旧救急棟の壁から南へ0.5mまで張り出していること，深さは地表下1.7mに存在することが判明し，当該掘削部は旧救急棟建設時の掘方のため，大部分は撹乱を受けていることがわかった．遺構が見つかったのは掘削部西側南端の地表下1.7m付近だけであり，そこでは，砂を多く含む明るい暗褐色土と，それを掘り込んだピット２基の存在を確認した．当該掘削部の中央から東側にかけては，地表下1.7～1.9mまで全て現代埋土であった．特に掘削部東端から10.5mの範囲においては，南端に，コンクリートの壁が埋設されており，コンクリート壁以南に存在する土は軟弱な土となっていた．古い建物の図面から，このコンクリート壁は深さ2.5mある大きな浄水槽であることが判明し，南側は浄水槽内にあたることから，土が軟弱となっていると考えられた．コンクリート壁は工事時に砕るとのことであったので，調査は終了した．

９．（医病）管理棟改修機械設備工事に伴う立会調査（1505）

＜調査期間＞

2015年６月12・17・19・24・25・30日，７月１～３・28・29日

＜調査面積＞

349.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

外来臨床研究棟を管理棟に改修する工事のうち，機械設備工事に伴う立会である．調査区を北東部，北部，南東部，南西部に分けて説明する．

北東部は東西に長いコ字状をなす．東端に1.7×4.1m，西端に1.5×4.0mの長方形掘削部をもち，その間を幅1.1m，長さ9.0mの掘削で連結するものであった．掘削深度は1.6～1.9mで，掘削したのはみな現代埋土であり，

遺構・遺物の検出はなかった．

北部に関しては，建物北辺際に配管用管路を設置のための掘削に立ち会った．東寄りには幅1.8～1.9m，長さ3.7～3.8mのトレンチを，相互に9.5mの間隔をあけて，２箇所掘削した．掘削深度は2.0mであった．西寄りは幅0.8～1.0m，長さ1.2～1.4m，深度0.7～0.9mのトレンチを２箇所掘削した．いずれも掘削したのは現代埋土であり，建物北側には建物建設時の掘方として現代埋土が存在していることが確認された．そこで建物北側の管路は全面的掘削を了承した．

南東部はＬ字形の外来臨床研究棟の内側屈折点から西へ3.0mの箇所を基点に，幅1.5m，長さ12.1mの南北トレンチを掘削し，さらにトレンチ北端西側に南北幅1.1m，東西長7.0m，深さ1.1mの東西トレンチを接続して掘削するものであった．掘削の結果，多くは撹乱埋土であったが，東西トレンチ中では地表下1.1mにおいて，南北トレンチとの交差点付近で0.5×1.6mの包含層の存在を確認した．また南北トレンチでは建物南辺から南へ4.0

写真167　北東部作業風景（東より）

写真168　北東部掘削状況（南より）

写真169　北部掘削状況（東より）

写真170　南東部作業風景（南西より）

写真171　南東部東西トレンチ包含層検出状況（東より）

写真172　南東部南北トレンチ包含層検出状況（南より）

m付近において地表下1.0mで包含層を確認し，同じく南へ8.2m付近において地表下0.7mで包含層を確認した．東西トレンチおよび南北トレンチの北側の包含層に関しては確認面の掘削深度にて施工可能であった．しかし南北トレンチ南側の包含層は地表下1.0mまで下げる必要があった．そこで南北トレンチ南側の包含層のうち，上位の鉄・礫を含む褐色土を掘り下げた．褐色土からは近代磁器が出土した．その後，その下位にある古代の包含層を慎重に下げた．遺構は確認されなかった．最終的に地表下1.0mまで下げて当該箇所の調査を終了した．

南西部は1442調査地点玄関部分西側のコンクリート壁を基点に，そこから西へ7.2mまでの範囲が管路域であった．まず基点壁から2.8mまでの範囲を地表下1.1～1.8mまで掘り下げた．建物近くであることもあり，掘削したのは現代埋土であった．

次に基点壁から西へ2.9mの位置に，幅0.8m，長さ7.5mの南北に延びる東側トレンチを掘削した．北側は地表下1.4m下げても現代埋土であったが，建物南辺から南へ3.2m付近で包含層を確認した．またそれ以南においては地表下0.9mにて，建物基礎と思われる栗石の集積を確認し，その上には炭や焼土が存在していた．また付近からは近世・近代の磁器が出土した．遺構の存在が確認されたことから，管路を変更することにし，東側トレンチの掘削は中止になった．

その後，基点壁から西へ5.0mの位置に，幅1.2～1.7m，長さ7.0mの西側トレンチを掘削した．ここはコンクリート壁で囲まれた２基の大きな方形枡があったこともあり，地表下1.6mまで掘削したが，掘削したのは全て現代埋土で，本トレンチからは遺構・遺物の検出はなかった．西側トレンチを幅広く掘削したことで，施工は可能になり，立会調査は終了となった．

写真173　南東部南北トレンチ掘削状況（南より）

写真174　南西部作業風景（南西より）

写真175　南西部東側トレンチ包含層検出状況（北より）

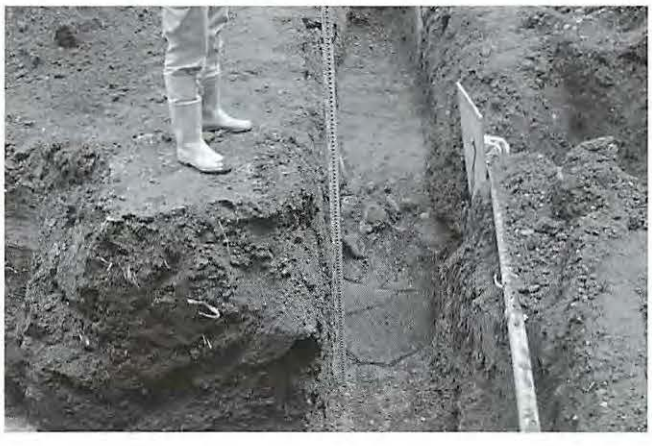


写真176　南西部西側トレンチ掘削状況（南より）

10.（本荘北）臨床研究棟新営仮設電柱建柱工事に伴う立会調査（1513）

＜調査期間＞

2015年９月28日

＜調査面積＞

9.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘北地区の給水ポンプ室の南西側に，仮設の電柱を建てる工事に伴う立会調査である．

給水ポンプ室の南に位置する共同溝建屋から1.1m西側において幅1.8×3.0mの範囲を掘削した．掘削範囲の東側に深さ0.55mに共同溝のコンクリートを確認した．そこでまず共同溝の位置を把握するため全体を地表下0.55～0.75mまで下げ，調査範囲のコンクリートを露出させた．その結果調査範囲の南西側は共同溝の掘方埋土が広く存在し，電柱を建てるのに適しているということになり，同部分を1.1×1.8mの範囲で地表下2.2mまで掘削した．共同溝の埋土はまだ下に続く状態であった．そのため地山は残っておらず遺構・遺物の検出はなかった．

写真177　作業風景（北より）

写真178　掘削状況（北より）

11.（本荘北）屋外サイン取設工事に伴う立会調査（1518）

＜調査期間＞

2015年12月８日

＜調査面積＞

32.5㎡（2.1㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘北地区におけるサイン設置工事は，全部で10箇所12個であったが，このうち文化層に影響が及ぶ可能性がある①～③の３箇所について，立会を実施した．

①地区は東病棟北西側の駐車場付近である．花壇の縁石に沿って0.6×0.9mの範囲を掘削した．地表下0.25m

写真179　①地区作業風景（北東より）

写真180　①地区焼土層検出状況（北より）

写真181　①地区掘削状況（南より）

で焼土の混じるシルト質土を検出し，シルト質土を切り込む掘り込みも確認された．掘り込み，シルト質土ともに近代～現代の所産と考えられる．その後，地表下0.4mまで掘削したところ，灰黄褐色砂質土が検出された．この灰黄褐色砂質土は煉瓦を含み，近代の層と考えられた．その下には灰褐色土が存在したが，確認だけで終わった．遺物は土師器・須恵器が出土した．

②地区は外来診療棟から東北東へ約80mの付近である．0.9×0.6mの範囲を地表下0.5mまで掘った．掘削した土は全て現代埋土であった．

③地区は基礎医学研究棟の南側である．花壇の中1.7×0.6mの範囲を地表下0.5mまで掘った．掘削したのは全て現代埋土で，底面にコンクリートを検出した．当該箇所は遺構・遺物の検出はなかった．

写真182　②地区作業風景（南東より）

写真183　②地区掘削状況（南西より）

写真184　③地区作業風景（南西より）

写真185　③地区掘削状況（東より）

12.（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（本荘北）に伴う立会調査（1527）

＜調査期間＞

2016年２月４日

＜調査面積＞

12.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘北地区の電力デマンド等計測システム取設工事に伴う立会調査である．本工事に必要なNo.①～③の３箇所の掘削に立ち会った．

No.①は第２立体駐車場の南側である．２つのマンホールの間をつなぐように，幅0.4m，長さ6.7mの範囲を地

写真186　No.①作業風景（西より）

表下0.5mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であった．

№②は本荘北地区の南東部，管理棟の南約4.2m付近である．恵和会の建物とその東隣のプレハブ北側に位置する．工事は恵和会の建物の西隣の人孔からプレハブ北側の桝をつなぐように，幅0.5m，長さ約8.5mを掘削した．掘削深度は西端が地表下0.45m，東側の桝部分付近が地表下0.55m，中間の配管がある所は地表下0.35～0.40mであった．掘削したのは全て現代埋土であった．

№③は看護師宿舎の北側である．北側にある特別高圧受電機棟の南のマンホールを基点に，幅0.3～0.5m，長さ6.8mを南北方向に直線的に掘削した．掘削深度は0.40～0.45mであった．掘削した土は現代埋土であった．

以上３箇所では遺構・遺物の検出はなかった．

写真187　№①掘削状況（西より）

写真188　№②作業風景（西より）

写真189　№②掘削状況（南より）

写真190　№③作業風景（北より）

写真191　№③掘削状況（東より）

Ⅱ－4　本荘中地区　（図6参照）

1．（本荘中他）屋外サイン取設工事に伴う立会調査（1519）

＜調査期間＞

2015年12月7日

＜調査面積＞

54.4㎡（3.9㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本立会は本荘中・南地区にサインを設置する工事に伴う調査であった．ここでは本荘中地区におけるサイン設置時の立会調査について報告する．本荘中地区におけるサイン設置工事は，全部で10箇所11個であったが，このうち文化層に影響が及ぶ可能性がある①～③の3箇所について，立会を実施した．

①地区は弓道場北側であった．1.1×0.6mの範囲を地表下0.58mまで掘削した．掘削した土は現代埋土であった．

写真192　①地区作業風景（東より）

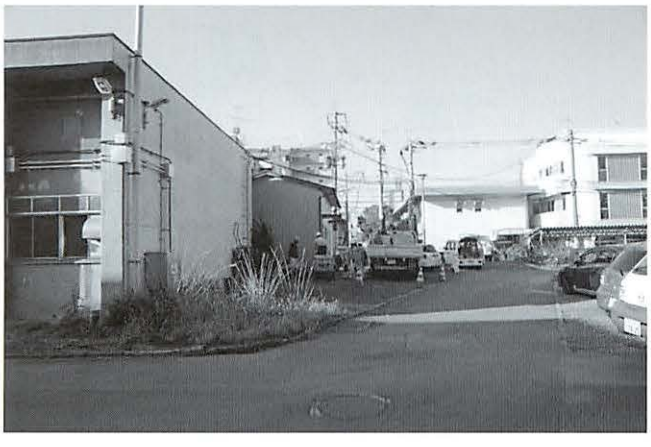


写真193　①地区掘削状況（東より）

②地区は国際先端医学研究拠点施設の北側であった．1.0×0.9mの範囲を地表下0.55mまで掘削した．掘削したのは全て現代埋土であった．

③地区は正門ゲート付近である．2.7×0.9mの範囲を掘削し，旧案内板を撤去し，新しくサインを設置する工事であった．2.7×0.9mの範囲を，地表下0.35mまで下げると砂質土が検出された．砂質土には栗石が含まれており，近世～近代の層と考えられた．さらに地表下0.55mまで掘り下げた．下底面で土坑の覆土かと思われる灰

写真194　②地区作業風景（東より）

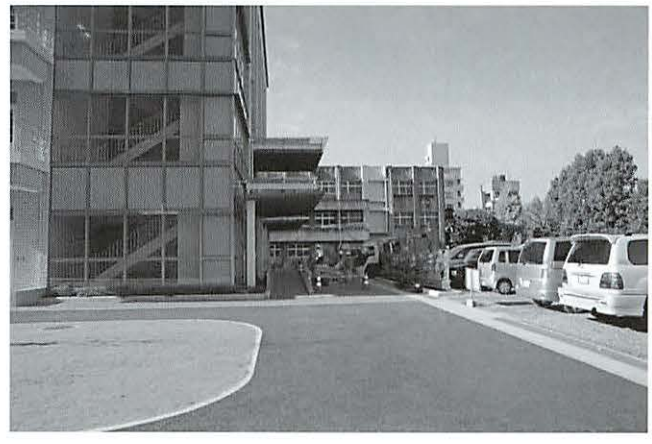


写真195　②地区掘削状況（東より）

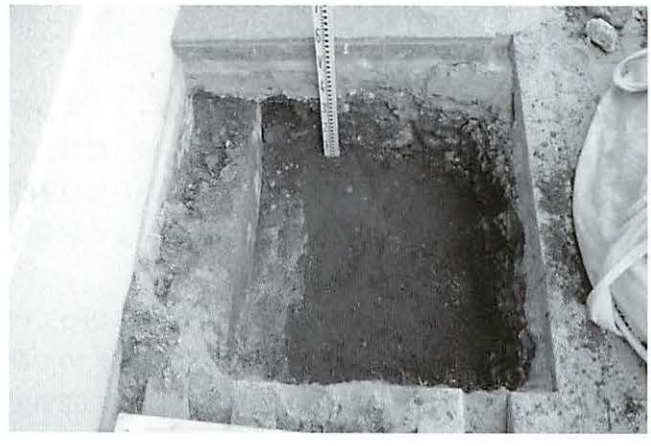


写真196　③地区作業風景（南西より）

黄褐色土を確認したが，掘削しないで済んだ．

全地区において遺物は出土しなかった．

写真197　③地区掘削状況（西より）

2．（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事に伴う立会調査（本荘中他）（1525）

＜調査期間＞

2016年１月25日

＜調査面積＞

93.5㎡（58.5㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘中・南地区の電力デマンド等計測システム取設工事に伴う立会調査である．ここでは本荘中地区において実施したNo.①の掘削に立ち会った．本荘中地区では本件に関しては３箇所の工事がおこなわれたが，土の掘削を伴う工事はNo.①だけであった．

本荘中サークル棟３北側を基点とし，道路に沿って向きを変え，旧医学部講義棟北西部に至る配線のための掘削であった．長さは約117ｍで，掘削深度は0.4～0.5ｍであったため，スポットで，No.①－１：サークル棟３北，No.①－２：弓道場北，No.①－３：旧医学部講義棟南西部，No.①－４：同北西部の４箇所の掘削に立ち会った．

No.①－１ではマンホール北隣から幅0.5m，長さ2.9mの屈折する部分の掘削に立ち会った．掘削深度は地表下0.4mであった．掘削の結果，地表下0.05mまではアスファルト，0.05～0.2mまでは砕石，0.2～0.4mまでは現代埋土であった．

No.①－２では道路上のマンホールの北側から幅0.5m，

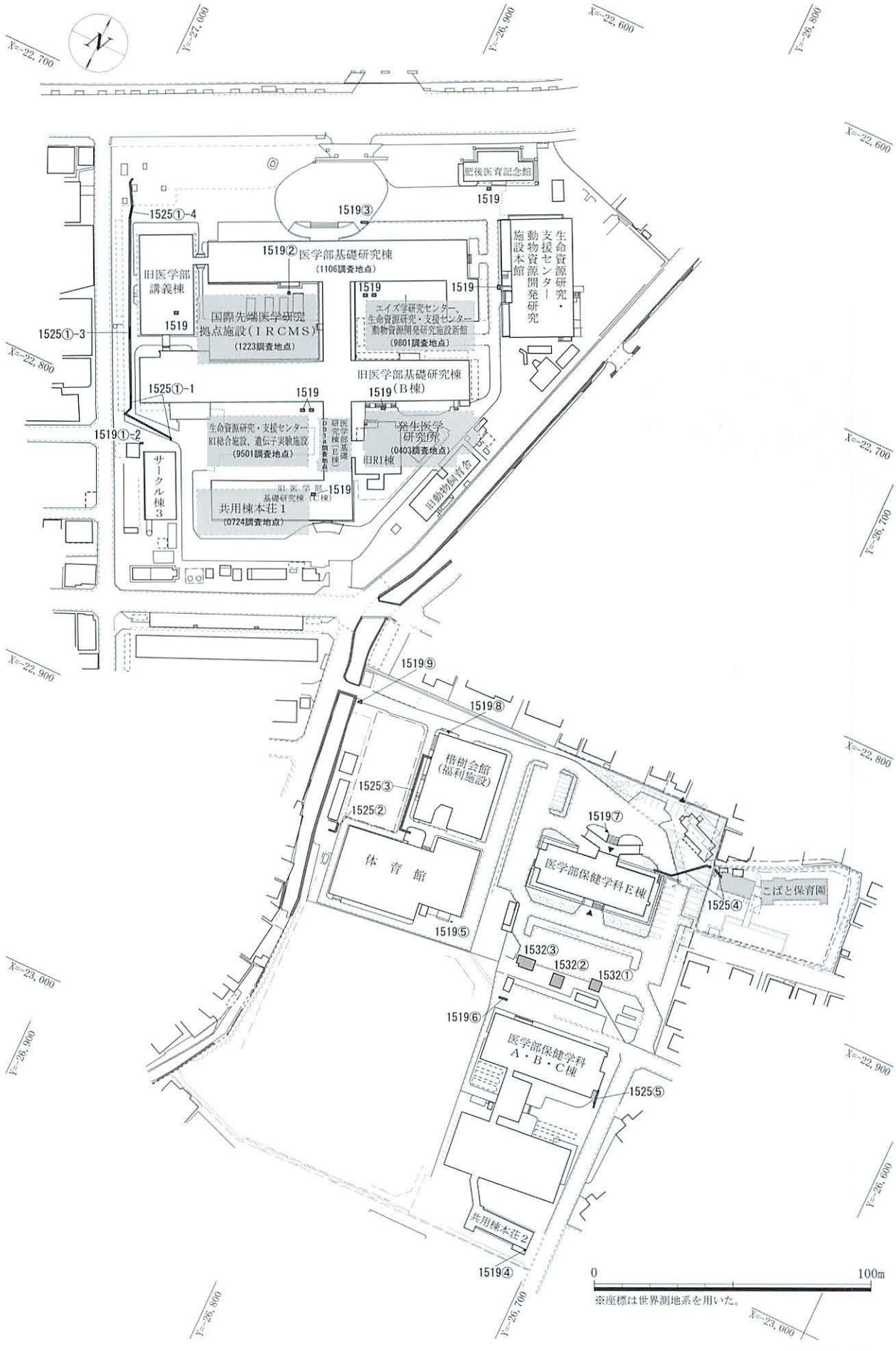
写真198　No.①－１作業風景（東より）

写真199　No.①－１掘削状況（南東より）

写真200　No.①－２作業風景（南より）

写真201　No.①－２掘削状況（南より）

図６　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）



長さ4.0mの掘削に立ち会った．掘削深度は地表下0.4mで，掘削の結果，掘削部分は全て配管の山砂からなっていた．

№①－３では南北に軸をもつ幅0.5m，長さ4.0m，深さ0.5mの掘削に立ち会った．掘削の結果，地表下0.05mまではアスファルト，0.05～0.40mは砕石，0.4～0.5mは埋土であった．埋土は東側0.4mが配管の山砂，西側0.1mがそれ以外の現代埋土となっていた．

№①－４では幅0.5m，長さ4.4m，深さ0.45mの掘削に立ち会った．掘削した結果，地表下0.05mまではアスファルト，0.05～0.15mは砕石，0.15～0.45mは現代埋土であった．掘削箇所には配管が存在しており，配管周りは山砂であった．

当箇所では遺構・遺物は検出されなかったので，その他の部分の掘削も了承した．

写真202　№①－３作業風景（南西より）

写真203　№①－３掘削状況（南より）

写真204　№①－４作業風景（西より）

写真205　№①－４掘削状況（南より）

Ⅱ－５　本荘南地区　（図６参照）

１．（本荘中他）屋外サイン取設工事に伴う立会調査（1519）

＜調査期間＞

2015年12月９・12日

＜調査面積＞

32.5㎡（10.6㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘中・南地区にサインを設置する工事に伴う立会調査であった．本荘南地区におけるサイン設置工事は，④～⑨の６箇所であった．

④地区は共用棟本荘２の南東隅である．0.5×0.9mの範囲を，地表下0.55mまで掘った．掘削した土は現代埋土であった．

⑤地区は本荘体育館南東隅であった．0.9×0.5mの範囲を，地表下0.4mまで掘り下げた．掘削した土は山砂を含む現代埋土であった．

写真206　④地区作業風景（南東より）

写真207　④地区掘削状況（西より）

⑥地区は医学部保健学科Ａ棟北西隅であった．0.9×3.1mの範囲を掘削した．掘削したところ，地表下0.3mで配管が検出された．確認したところ配管の下は掘削しても問題ないとのことであったので，下位を調査することになった．大部分は撹乱埋土であったが，調査区北西隅において，地表下0.45mで，近世～現代の褐色土が検出された．褐色土中には栗石が含まれていた．掘削は地表下0.4～0.45mまでで終了となった．

⑦地区は医学部保健学科Ｅ棟付近であった．0.6×1.1

写真208　⑤地区作業風景（東より）

写真209　⑤地区掘削状況（東より）

写真210　⑥地区作業風景（北東より）

mの範囲を掘削した．地表下0.30～0.35mで焼土を含む硬化した土が検出され，以下に焼土層が存在した．これらの土には瓦片や礫が含まれており，現代埋土と考えられた．さらに下を調査したところ，地表下0.4mで鉄分を含む灰褐色土となり，地表下0.5mで栗石を検出した．近代～現代の土層と考えられた．遺構は検出されなかったため，灰褐色土を地表下0.55mまで掘り下げ終了した．

⑧地区は楷会館北側であった．北側スロープの西側に，0.7×1.1mの範囲で掘削をおこなった．地表下0.55mまで掘削したが，掘ったのは現代埋土のみであった．

⑨地点は本荘南地区の北西通用門付近であった．旧案内板の撤去と新しいサインの設置のための掘削をおこなった．掘削したのは1.6×2.7mの範囲であった．北西部は地表下0.55mまで現代埋土を掘削した．南西部は地表下0.45mで近世～近代の砂質土を検出した．砂質土上面で遺構確認をしたが，遺構は検出されなかったため，砂質土を地表下0.55mまで掘り下げた．北東部はコンクリートが存在していた．南東部は地表下0.55mまで掘削

写真211　⑥地区掘削状況（南より）

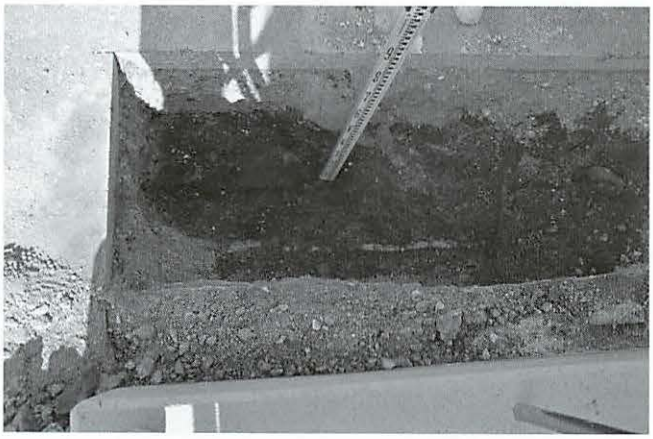


写真212　⑦地区作業風景（北西より）

写真213　⑦地区掘削状況（北より）

写真214　⑧地区作業風景（北西より）

写真215　⑧地区掘削状況（東より）

写真216　⑨地区作業風景（西より）

し，下底面で近世～近代の砂質土を検出した．

以上本地点では遺構・遺物の検出はなかった．

写真217　⑨地区掘削状況（北より）

2．（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（本荘中他）に伴う立会調査（1525）

＜調査期間＞

2016年２月１・２日

＜調査面積＞

93.5㎡（35.0㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘中・南地区の電力デマンド等計測システム取設工事に伴う立会調査である．本荘南地区ではNo.②～⑤の４箇所の掘削に立ち会った．

No.②は体育館西側のマンホールから南側のコンクリート桝に至る配線路であった．マンホールから南へ幅0.3～0.5m，長さ約４ｍを直線状に掘削し，そこをコーナーとして西へ向きを変え，約２ｍ直線状に掘削した．掘削深度は0.40～0.45m．コーナー以北は現代埋土と暗褐色の近代～現代の埋土からなっていた．コーナー以西は全て現代埋土からなっていた．遺構・遺物の検出はなかった．

No.③は体育館北側の備蓄倉庫からテニスコートの東側を通って，備蓄倉庫の北にある楷樹会館に至る総延長約35ｍの配線路であった．掘削は備蓄倉庫北西部のマンホールを基点に西へ4.3m進み，その西端をコーナーとして北に向きを変え，約28m直線状に北上し，その北端コーナーで東に向きを変え，楷樹会館西壁に到達した．

写真218　No.②作業風景（南西より）

写真219　No.②南北路掘削状況（北より）

写真220　No.③作業風景（南より）

写真221　No.③掘削状況（南より）

掘削深度は地表下0.25～0.45m．掘削した土は全て現代埋土であった．掘削底面を見ると，調査区の南半分は山砂および現代埋土，北半分では近代～現代の暗褐色土が所々確認された．遺構・遺物の検出はなかった．

No.④は本荘南地区東側のこばと保育園から医学部保育学科Ｅ棟北西隅に至る配線路であった．保育園西側のコンクリート壁を基点として西に1.5m直進し，その西端をコーナーとして北西方向に向きを変えて約13m直線状に進み，その南端をコーナーとして西に約７m直線状に延びるものであった．当該地区は大部分が駐車場となっており，西端部分のみＥ棟附属のコンクリートスロープの北際を通っていた．掘削深度は0.30～0.45mであった．掘削の結果，大部分においては地表下0.05mまでアスファルト，0.05～0.30mは砕石，以下0.45mまではやや明るい砂混じりの暗褐色土となっていた．暗褐色土からは瓦片やモルタルが出土し，近代～現代の埋土と考えられた．またスロープ北際の西端部分は地表下0.3mで配管が検出され，掘削は配管直上までとなった．掘削した土はいずれも近代～現代の埋土で，遺構・遺物の検出はなかった．こばと保育園寄りのコンクリート壁以東も掘削部となっていたが，以上の状況から包含層に影響はないと判断し，掘削を了承した．

No.⑤は保健学科Ａ棟南東部である．校舎南東隅を基点として南に6.0m掘削した．南端はコンクリート桝に接続させた．掘削幅は0.30～0.55m．掘削深度は0.30～0.45m．掘削部分には配管が存在しており，掘削した土は現代埋土，山砂であった．

以上４箇所においては遺構・遺物の検出はなかった．

写真222　No.④作業風景（南西より）

写真223　No.④中央部掘削状況（南西より）

写真224　No.⑤作業風景（北より）

写真225　No.⑤掘削状況（南より）

3．（本荘南）駐車場拡張工事に伴う立会調査（1532）

＜調査期間＞

2016年３月７・８日

＜調査面積＞

80.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

本荘南地区の駐車場拡張工事に伴う立会調査である．場所は医学部保管学科Ａ・Ｂ・Ｃ棟北側の駐車場中央にある倒木３本の根を抜き取り，駐車場とする工事であった．掘削箇所は３箇所あり，東からNo.①・②・③とした．

No.①は3.9×4.0mの範囲を掘削した．中央に樹木の根があったので，根の周りを地表下0.6～1.0mまで掘削し，その後，根を重機で釣り上げた．根があった所は地表下0.8mの凹みとなった．掘削エリア北東部の掘削底面にはわずかに近世～近代の灰褐色土が確認されたが，掘削したのは現代の埋土のみであった．

No.②は4.1×4.4mの範囲を掘削した．中央に樹木の根があったので，根の周りを幅１m位，深さ地表下1.0mまで掘削した．掘った土は全て現代埋土であった．掘削底面付近において，灰褐色土ブロックを含む硬い土があったが，これも近代～現代埋土と考えられた．根は地表下1.0mよりも深くならない範囲で，重機で取り除いた．

No.③は6.5×3.9mの範囲を掘った．エリア内には樹木の根が２本あり，根の周りに幅0.8～1.2m，深さ地表下1.0m掘削した．掘削したのは全て現代埋土で，掘削底面において，灰褐色ブロックの硬化した土が検出された．これも近代～現代の埋土と考えられる．根の周りの掘削後，根を釣り上げ，除去した．

以上３箇所においては遺構・遺物の検出はなかった．

写真226　No.①作業風景（南より）

写真227　No.①掘削状況（西より）

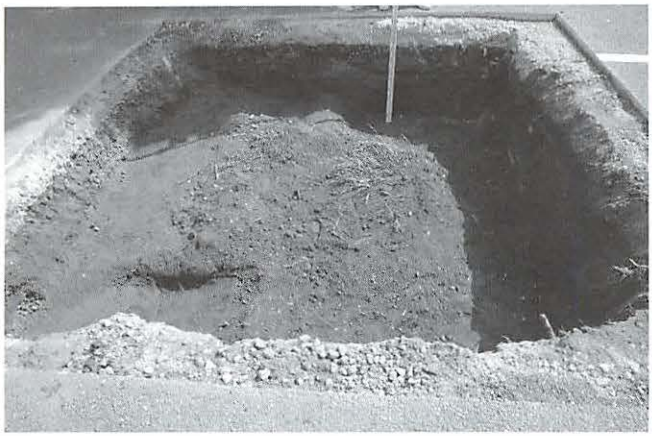


写真228　No.②・③作業風景（南西より）

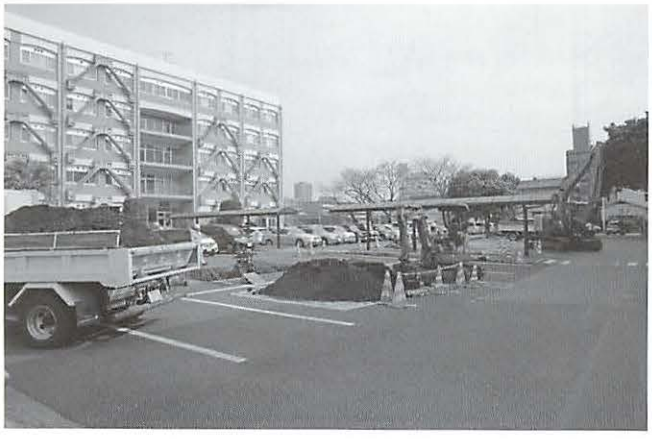


写真229　No.②掘削状況（東より）

写真230　No.③掘削状況（西より）

写真231　No.③根除去状況（西より）

Ⅱ－6　大江地区（薬学部）（図7参照）

1．（大江北）A棟北側屋外給水管修理工事に伴う立会調査（1509）

＜調査期間＞

2015年8月20日

＜調査面積＞

28.0㎡（24.0㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

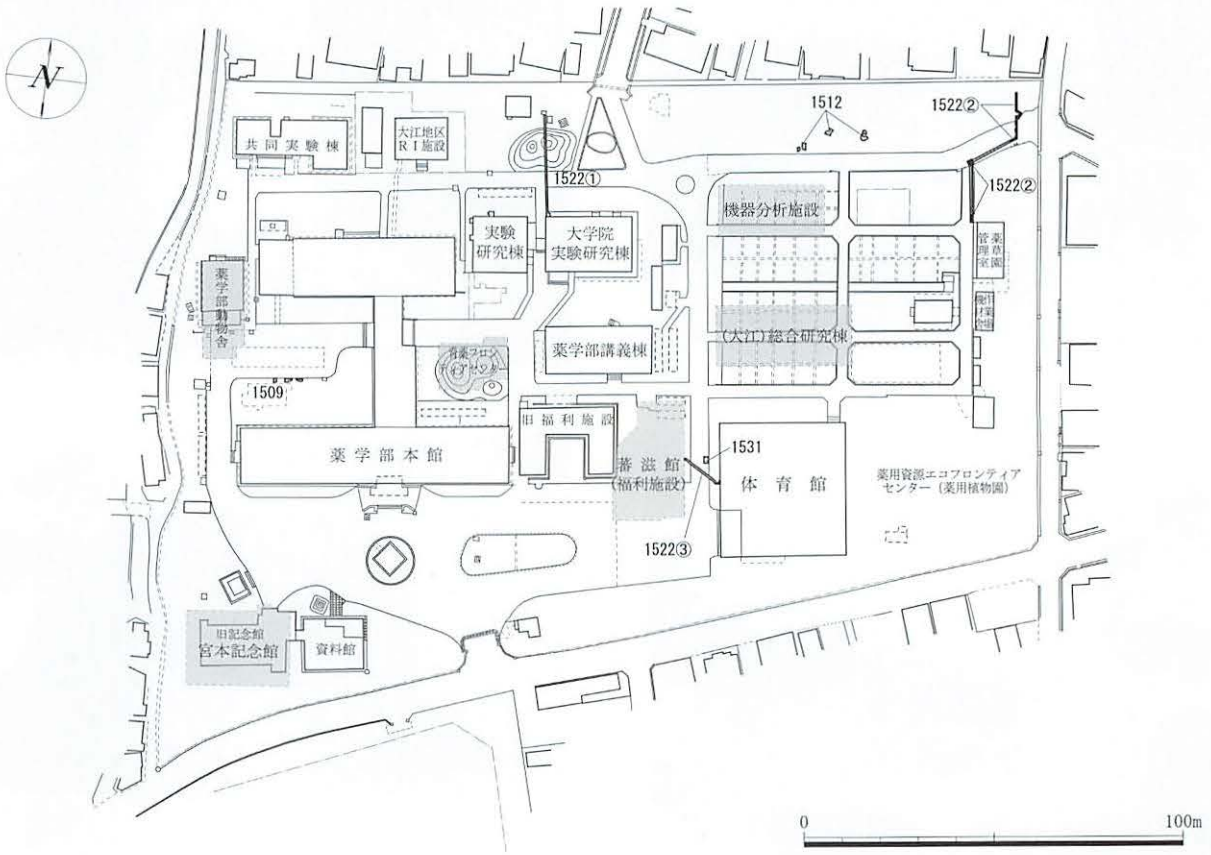
薬学部本館北側で発生した漏水の止水工事に伴う立会調査である．給水管の漏水箇所の掘削および配管補修のための掘削をおこなったため，全部で3箇所掘削した．西トレンチ，中央トレンチ，東トレンチとして説明する．いずれのトレンチも駐車場の縁石に沿って設定した．なお当初計画では動物舎南東隅のも漏水調査のため掘削する予定であったが，掘削はおこなわなかった．

最初掘削したのは西，中央トレンチである．そのうち漏水していたのは中央トレンチであった．中央トレンチは東西長2.9m，南北長最大1.5mの範囲に不整方形に掘

写真232　西・中央トレンチ作業風景（西より）

写真233　中央トレンチ掘削状況（西より）

図7　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）



削したものであった．止水工事に必要な地表下1.3mまで掘削した．掘削した土は現代埋土で，掘削底面に包含層が確認された．

西トレンチは東西長1.0m，南北長1.5mの長方形の範囲を地表下1.25mまで掘削した．掘削した土は現代埋土であったが，北側から0.6mの範囲には掘削底面に包含層が確認された．

東トレンチは東西長1.4m，南北長1.4mの方形に掘削した．上位には配管に伴う現代埋土があったが，地表下0.7mで近代位の包含層が検出された．遺構は存在しなかったので，さらに下げたところ，地表下1.1mで暗褐色の古代包含層が検出された．北側は配管工事をする必要があるため，トレンチ北縁から幅0.7mの範囲を地表下1.3mまで包含層掘削した．

3箇所とも遺構・遺物の検出はなかった．

写真234　西トレンチ掘削状況（西より）

写真235　東トレンチ掘削状況（北より）

2．（黒髪南他）台風15号に伴う樹木復旧作業に伴う立会調査（大江）（1512）

＜調査期間＞

2015年9月15日

＜調査面積＞

12.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号の影響で倒れた，薬学部機器分析施設北側道路沿いの，樹木3箇所の復旧作業に伴う立会調査である．本作業は樹木が倒れた際にめくりあがった周辺を掘削し，また，木を起こす際に障害となる根の部分を掘削ないし根切りをおこない，樹木を起こして養生するというもの

写真236　作業風景（南西より）

写真237　クサギの木箇所掘削状況（南より）

写真238　サンシュユの木箇所掘削状況（東より）

であった．そのため現状埋まっている根の部分はほとんど掘削しないため，比較的浅い深度で作業をおこなえた．西からクサギ，ロウバイ，サンシュユの木の順に作業を実施した．クサギ箇所は，樹木西側の1.0×1.8mの範囲を地表から0.45mまで，樹木東側の1.0×0.8mの範囲を地表から0.35mまでの２箇所掘削した．ロウバイ箇所は1.7×1.7mの範囲を地表から0.45mまで掘削した．サンシュユ箇所は2.0×2.7mの範囲を地表から0.3mまで掘削した．ともに柔らかい腐葉土内におさまった．

遺構・遺物の検出はなかった．

３．（黒髪北他）電力デマンド等計測システム（電気・水・ガス）取設工事（大江）に伴う立会調査（1522）

＜調査期間＞

2016年１月18・19日

＜調査面積＞

40.3㎡（37.8㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

大江地区の電力デマンド等計測システム取設工事に伴う立会調査である．No.①～③の３箇所の掘削に立ち会った．なお当初は薬学部北東部から東へ延びる配線も予定していたが，土は掘削しない工事となったため，立会はおこなわなかった．

No.①は大学院実験研究棟北西隅から北にある桝に至る配線路である．掘削した部分は幅0.5m，長さ27mで，東西に走るアスファルト道路を横切るものであった．道路以北は盛り土が厚く積まれた箇所であったため，盛り土のない北端部の桝から南へ７mを先に掘削した．掘削した土は全て現代埋土で，ヒューム管やそれに伴う山砂がある部分もあった．それ以南の盛り土部分は，盛り土が厚く，掘削による文化層へ影響はないと判断し，立会はおこなわず，掘削を進めることを了承した．アスファルト道路部は地表下0.45mまで掘削したが，すべて現代埋土であった．道路以南は校舎北側の庭を掘削したもので，地表下0.4m掘削したが，全て現代埋土であった．遺構・遺物の検出はなかった．

No.②は大江地区北東部の桝から薬草園管理室に至る配線路である．総延長約48mであり，掘削深度も桝を除き0.5mであるので，北東部，東部，西部桝，南西部の４

写真239　No.①作業風景（西より）

写真240　No.①北側掘削状況（北より）

写真241　No.②作業風景（南より）

写真242　No.②北東部掘削状況（南より）

箇所のスポット掘削に立ち会うことにした．北東部の立会は北東隅の桝を基点として，直線的に南下し，アスファルト道路に至るまでとしたが，その南端付近にコンクリートがあって掘削できなかったので，クランク状に東側に迂回し，掘削した．掘削の幅は0.5m，長さ8.7m，であった．掘削深度は地表下0.4mであったが，掘削した土は全て現代埋土や腐葉土であった．東部はアスファルト道路のアスファルトを剥がし，北東－南西方向に幅0.5m，長さ1.8mの範囲を，地表下0.45mまで掘削した．掘削した土は現代埋土であった．西部桝は道路の三叉路付近に1.5×1.5mの方形桝を設置するもので，深さは地表下0.9mまで掘削した．掘削の結果，最上部0.07mはアスファルト，地表下0.3mまでは砕石，0.3～0.8mは現代埋土であった．その下には鉄分を含む硬化した暗褐色土が存在した．精査したが遺構は確認されなかったので，暗褐色土を地表下0.9mまで掘削した．南西部は薬草園管理室前に幅0.5m，長さ2.0m，地表下0.4mまで掘削した．掘削したのはガス管掘方内の山砂であった．４箇所の立会の結果，遺構・遺物は検出されなかったので，立会を実施していない部分の掘削も了承した．

No.③は蕃滋館から体育館に至る11mほどの配線路である．蕃滋館東隣の芝生部分，中央アスファルト道路部分，体育館西側の芝生部分からなる．蕃滋館東隣は幅0.5m，長さ2.0m，地表下0.4mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であった．アスファルト道路部分の東半は1403調査地点として調査済であったので，西半だけ掘削に立ち会った．幅0.5m，長さ2.0m，地表下0.45mまで掘削したが，掘削した土は現代埋土であった．体育館西隣は桝・マンホールをつなぐように幅0.5m，長さ2.0mを，地表下0.4mまで掘削した．掘削したのは現代埋土であった．遺構・遺物は検出されなかった．

写真243　No.②東部掘削状況（南より）

写真244　No.②西部桝掘削状況（東より）

写真245　No.③作業風景（北より）

写真246　No.③道路下掘削状況（南東より）

４．（大江北）蕃滋館東側埋設ガス管漏洩修理工事に伴う立会調査（1531）

＜調査期間＞

2016年２月３日

＜調査面積＞

2.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

大江北地区蕃滋館の東側道路に埋設された，ガス管の

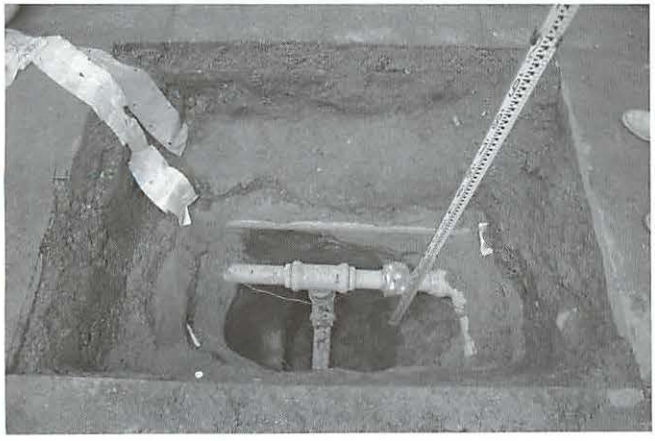
漏洩による緊急補修工事に伴う立会調査である．

漏洩しているガス管の位置は，事前に土壌のガス濃度の高い箇所を調査した結果，2014年に埋設したガス管のジョイント部分である可能性が疑われた．そのため，この付近を1.7×1.2mの範囲で掘削し，ジョイント部分を探していった．地表から0.35mを全体的に重機で剥ぎ，ここでもう一度土壌のガス濃度を測ったところ，この地点である可能性が高まった．このことから，ガス管があると思われる西側半分をさらに手掘りで掘削した．ガス管の掘方には深さ1.6mまで山砂が敷き詰めてあり，同じ掘方内で施工ができたため，新たに地山は掘削していない．しかし，ガス管掘方の壁面を確認したところ遺構埋土と地山と思われるものを確認した．地表から0.95～1.50mは，炭化物や橙色粒を多く含む暗褐色土層で，1.5～1.6mは黄褐色ローム層であった．遺構の立ち上がりが確認できないことと，遺物が検出されていないことから，遺構の性格と時期は不明であるが，黄褐色ローム層まで掘り込んであり規模が大きいことから，本地点は溝の内部であった可能性がある．

写真247　作業風景（北西より）

写真248　北壁調査区断面（南より）

写真249　調査区掘削状況（西より）



Ⅱ－7　京町地区　（図８参照）

1．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）に伴う発掘・立会調査（1417）

＜調査期間＞

2015年４月１～３・16日，６月10日

＜調査面積＞

747.9㎡（68.4㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広・宮崎拓（株式会社有明測量開発社）

＜調査概要・結果＞

給食センター跡地に新たに校舎を建築する工事に伴う立会調査である．2014年度に引き続き調査した．

今年度は給食センター南側のアスファルト舗装部を調査した．この場所は校舎新築部の西側にあたり，長さ24.1m，幅1.5～2.8mの範囲を，地表下0.12～0.44mまで掘り下げた．全て現代埋土であった．なお当該部分は年報21にも記載している．

また附属小学校校舎Ｂ棟北側の雨水枡検出のための立会調査を実施した．1.1×1.1mないしは1.4×1.4mの雨水枡５箇所の掘削をおこなった．いずれの雨水桝も地表下0.1mで検出され，砕石を掘削するのみで終了した．遺構・遺物は検出されなかった．

写真250　アスファルト舗装部作業風景（南より）

写真251　アスファルト舗装部掘削状況（北より）

写真252　Ｂ棟北側作業風景（西より）

写真253　雨水枡掘削状況（西より）

2．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他機械設備工事（その２）に伴う立会調査（1443）

＜調査期間＞

2015年４月１～３・16日

＜調査面積＞

249.8㎡（130.7㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・宮崎　拓（株式会社有明測量開発社）

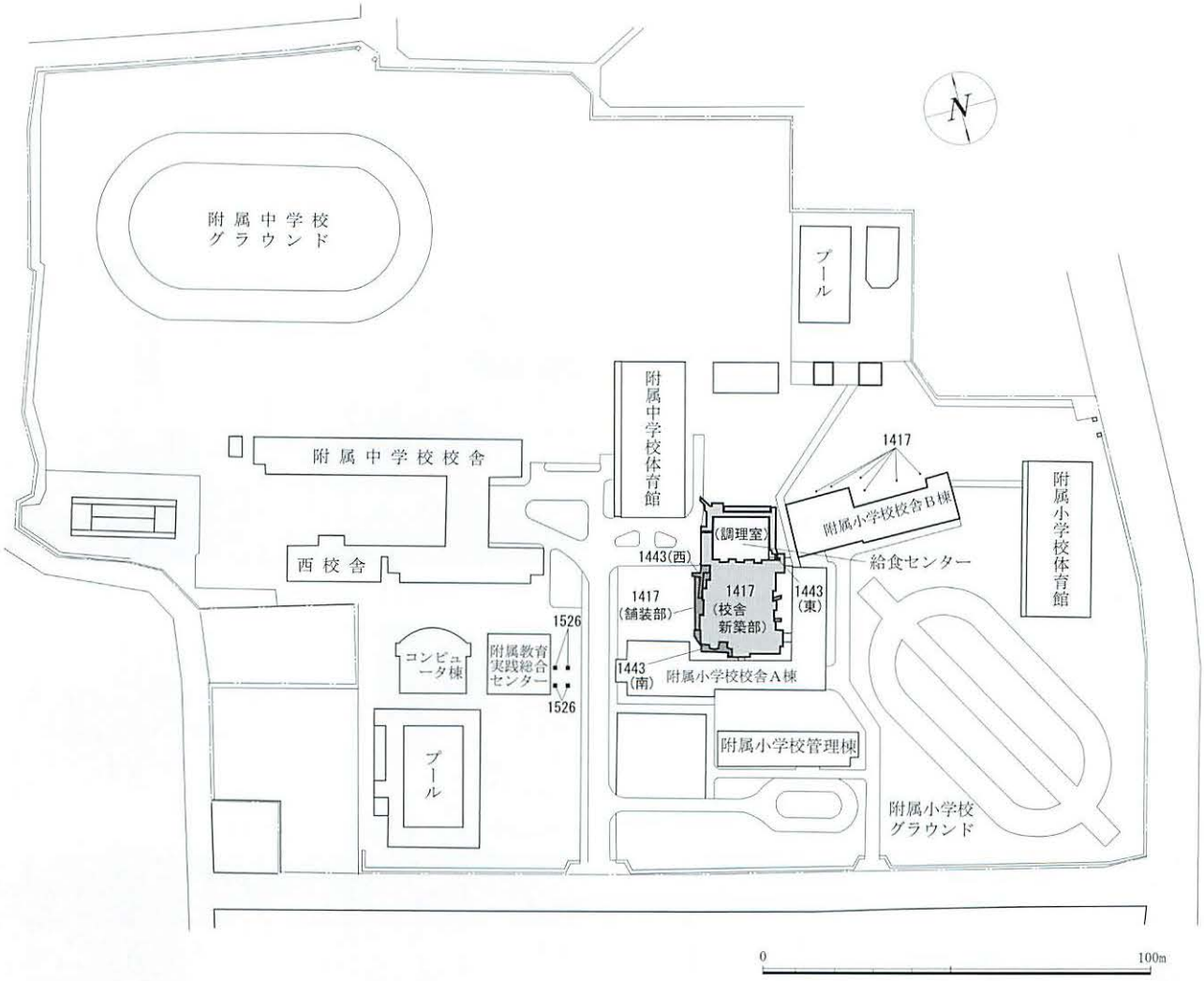
＜調査概要・結果＞

給食センター跡地に新たに建設する校舎に関係する機械設備を設置する工事に伴う立会調査である．2014年度に引き続き調査をおこなった．今年度は給食センター北側の調理室外周部分東部，南側の校舎新築部西側，校舎新築部南側の掘削に立ち会った．

調理室外周部分東部は1.9×3.0m，掘削深度0.5mの掘削に立ち会った．掘削した土は全て撹乱埋土であった．

校舎新築部西側は新築校舎北半の西壁際の調査をおこ

図８　京町地区における調査地点配置図



なった．ここは包含層が残っており，地表下0.3～0.4mで暗褐色の包含層を検出した．遺構は検出されなかったので慎重に掘り下げたところ，硬化面が出土し，弥生土器が出土した．記録をとったあと，硬化面および包含層を工事に必要な地表下0.5mまで下げ，調査を終了した．

校舎新築部南側は校舎外壁から約３m離れた範囲を掘削する予定で調査を開始した．しかしそこには包含層が確認され，校舎に近い部分のみ撹乱となっていた．そこで熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，掘削範囲変更の許可を得，校舎に近い部分を掘削することにした．当該部分は校舎の南西隅を中心にその東側と西側からなっていた．校舎南西角以東では、幅0.7m、長さ5.6mの範

写真254　調理室外周部東部掘削状況（南より）

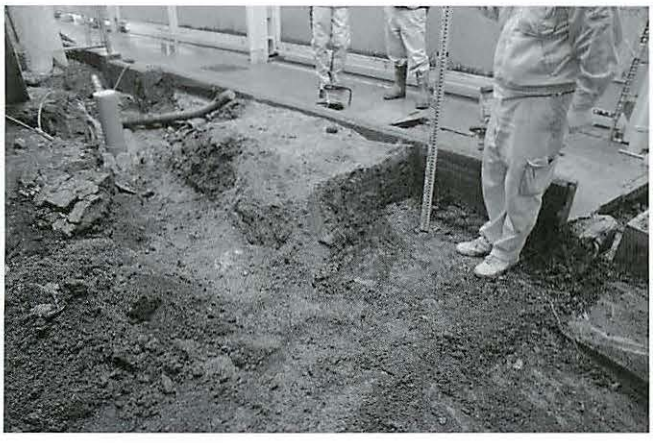
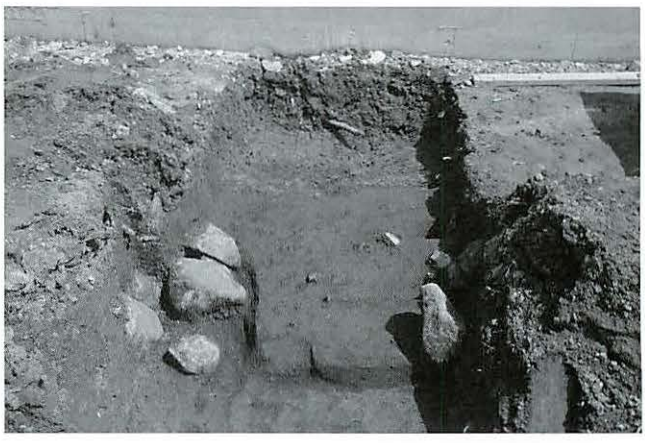


写真255　校舎新築部西側硬化面検出状況（西より）



囲を掘削した．地表下0.5mにて1.1×0.2mの包含層の残存が確認された．包含層残存部分は遺構確認をおこなったが，遺構は検出されなかったので，範囲を記録した後，地表下0.6mまで慎重に掘り下げ，終了となった．校舎南西角以西は幅0.8m，長さ2.3mの範囲を地表下0.65mまで掘り下げた．一部底面に包含層に近い土が検出されたが，掘削した土は現代埋土のみであったため，調査を終了とした．

写真256　校舎新築部西側掘削状況（西より）

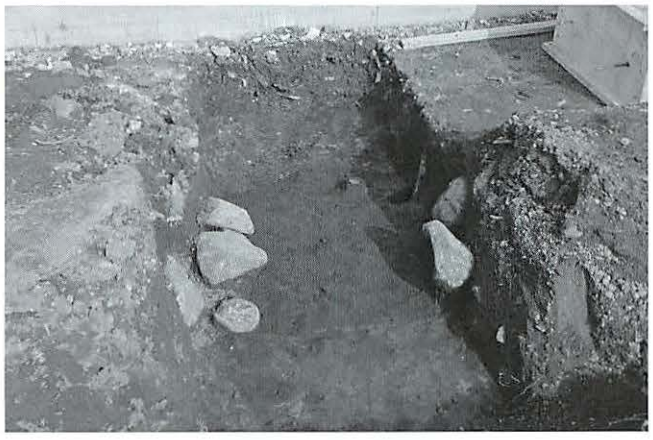


写真257　校舎新築部南側掘削終了（東より）

3．（京町）教育学部附属教育実践総合センター東側プレハブ倉庫復旧工事に伴う立会調査（1526）

＜調査期間＞

2016年１月28日

＜調査面積＞

11.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

台風15号の影響による，教育学部附属教育実践センターの東側にあったプレハブ倉庫の損壊をうけ，新たに基礎を設けて，プレハブ倉庫を建てなおす工事に伴う立会調査である．

基礎部分の４箇所の掘削をおこなった．教育学部附属教育実践総合センターの南東端から北へ1.3m，東へ0.6mの位置に幅0.4×0.4mを桝掘した．そこを基点に，北に2.6m離れた場所と，東に2.2m離れた場所に同規格の桝を建物に平行した位置で掘削をおこなった．それぞれ深さは0.25mまで掘削した．

包含層や遺構の検出はなかったが，北東側の掘削箇所の現代埋土から，弥生土器が１点出土した．

写真258　作業風景（南東より）

写真259　北東隅掘削状況（南より）

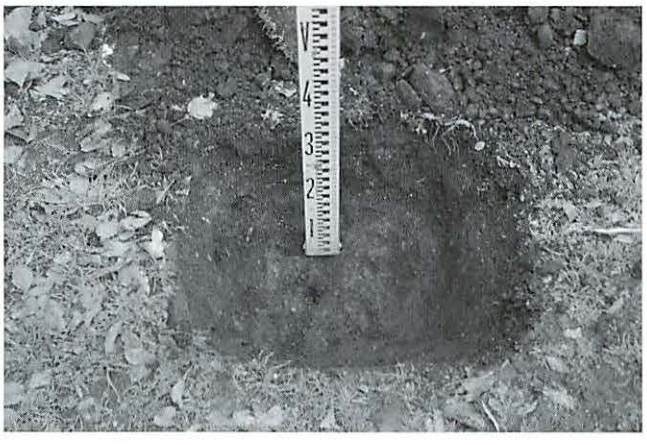


写真260　調査区掘削状況（南東より）

Ⅱ－8　宇留毛地区

1．（宇留毛）寄宿舎共通棟男子浴室等改修機械設備工事に伴う立会調査（1517）

＜調査期間＞

2015年11月30日

＜調査面積＞

9.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・吉留　広

＜調査概要・結果＞

寄宿舎・国際交流会館の共通棟男子浴室等のガス管・給水管布設の工事に伴う立会調査である．

調査地点付近の立地は北東から南西へと下る斜面を削りフラットにしている状況である．調査箇所は擁壁に沿った箇所，男子浴室とその北側にある貯水タンクの間に沿った箇所，それを繋ぐ箇所の３箇所を掘削予定であった．まず，擁壁から離れた男子浴室の北西側において，幅0.50～0.65m・長さ5.6mの範囲を地表から0.5～0.6mの深さで手掘りによって掘削した．建物際であったこと，配管が入り組んでいることから掘削は現代埋土内におさまり，遺物・遺構の検出はなかった．あとの２箇所は斜面を削った擁壁の下端沿いであり，掘削深度も浅いことから，遺物包含層および遺構はかからないと判断し，施工業者には慎重に工事を進めるように指示して，調査を終了した．

写真261　作業風景（北西より）

写真262　作業風景（東より）

写真263　掘削状況（西より）

第Ⅲ章　文化財活用活動の記録

本年度，埋蔵文化財調査センターでは，①地下と地上の文化財散歩，②速報展，③1429他調査地点現地説明会，④授業等への協力などをおこなった．なお①及び②は熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想第２期５カ年計画に係る事業である．その他，センター主催の事業ではないが，第10回ホームカミングデーにおける地下の文化財散歩の開催（2015年10月31日），本荘地区における遺跡サイン（学内サイン）の設置に関する協力，外国語版ホームページの整備をおこなった．

１．地下と地上の文化財散歩

＜開催期間＞

2015年６月１～５日（５日は雨天により中止）

＜開催場所＞

黒髪南地区，本荘北地区

＜参加人数＞

52名

＜概要＞

６月１～３日は黒髪南地区で実施した．コースは総合情報統括センター入口→工学部研究資料館→本部棟発掘調査現場→自然科学研究科・理学部総合研究実験棟→理学部周辺→埋蔵文化財調査センターであった．所要時間は約１時間半であった．

６月４・５日は本荘北地区で実施予定であったが，５日は雨天により中止となり，４日のみ実施した．コースは外来臨床研究棟入口→基礎医学研究棟→外来診療研究棟東側駐車場→医学教育図書棟→西病棟・東病棟他→山崎記念館であった．所要時間は約１時間半であった．

＜新聞掲載他＞

2015年４月　『熊大通信』56号，p.21

写真264　「地下と地上の文化財散歩」(黒髪南地区)実施状況

写真265　「地下と地上の文化財散歩」(本荘北地区)実施状況

2015年７月　『くまもと経済』409号，p.192

2015年７月　『熊大通信』57号，p.20

２．速報展「速報！遺跡の上の熊本大学2015」

＜開催期間＞

2015年11月１日～2016年３月31日

＜開催場所＞

埋蔵文化財調査センター展示室

＜参加人数＞

217名

＜概要＞

2014年度に調査した1310調査地点の縄文時代の遺物や，1321調査地点の近世の井手関連遺物など100点の遺物を展示した．また会期中，11月10日，12月10日に調査員による展示説明会をおこなった．

＜新聞掲載他＞

2015年11月12日『熊本日日新聞』　18面（図11）

2015年11月13日『毎日新聞』　22面

写真266　速報展 展示状況（全体）

写真267　速報展 展示状況（近世）

写真268　速報展 展示説明会実施状況

2015年12月５日『くまにち　あれんじ』イベントナビ

３．1429他調査地点現地説明会

＜開催期間＞

2015年４月17・18日

＜開催場所＞

1429他調査地点

＜参加人数＞

約150名

写真269　現地説明会 遺跡解説状況

写真270　現地説明会 遺物解説状況

＜概要＞

本部棟改修工事に伴う発掘調査で，1908年竣工の熊本高等工業学校初代本館の赤煉瓦基礎が発見されたため，そうした近代遺構を中心とした調査成果を公開するため，現地説明会を開催した．また現地では遺物解説も合わせておこなった．

＜新聞掲載他＞

2015年４月17日　『熊本日日新聞』　30面（図10）

2015年４月『熊大通信』57号，p.20

４．授業等への協力

2015年５月14日　大学院先導機構吉武隆一准教授と授業履修生５名がセンター展示室を見学．

2015年６月26日　文学部杉井健准教授と授業履修生18名がセンター展示室を見学．

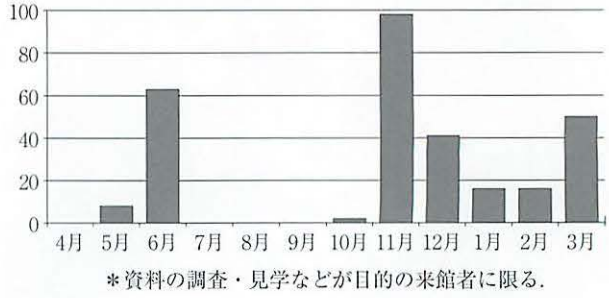
2015年11月12日　グローバル教育カレッジJOHNSON，Kristopher Dennis特任助教と履修生７名がセンター展示室を見学．

2016年３月５日　第26回九州縄文研究会（熊本大学文学部にて開催）において遺物展示を実施．

５．来館者数

294名

図９　2015年度来館者数の推移



＊資料の調査・見学などが目的の来館者に限る．

跋　文

2015年度，埋蔵文化財調査センター（以下「センター」）では，松田准教授と山野助教が発掘調査の現場を担当し，大坪助教は積み残し報告書の作成に専念した．５月には発掘調査量の増大に対応するため，熊本県教育委員会で長く発掘調査の経験を積まれた吉留広さんに加わっていただいた．年間５件の発掘調査と44件の立会調査に対応できたのは，両名の教員と吉留さんのガンバリの賜物である．

調査の合間の時間を縫って，普及活動も活発に行った．2015年３月末，大学の環境整備の一環として，「地下の文化財」案内板が黒髪地区の10箇所に設置された（北地区３箇所，南地区７箇所）．甕棺墓，駅家（うまや）関連施設などこれまでの調査で出土したトピックを写真と短い文章で紹介したもので，調査地点には日・英・ハングルでテーマを表示した深緑色のスタンドが立つ．本年度はこの案内板を本荘地区にも８箇所設置し，「地下の文化財」マップ本荘地区版を完成させた．これについての楽しい紹介記事が『熊大通信』58号に載っている（13～14頁）．

この案内板や五高記念館等を結んで大学構内を歩く「地下と地上の文化財散歩」も２年目を迎えた．今回は雨で１日中止されたが，４日間で52名の参加者があった．秋の文化祭期間に合わせて実施しているホームカミングデーの「地下の文化財」散歩も定着してきた．ステッキを携えた往年の大学生が参加され，このときばかりは，戦前の学生寮の遺物に関心が集まった．

11月から翌３月まで，「速報！遺跡の上の熊本大学2015」をセンター１階の展示室で開催した．前年度の発掘調査成果を中心に紹介する企画展は昨年に続き２回目である．開催期間には調査員による展示解説を行い，学内外から217名の見学者があった．こうしたセンターの展示は全学の授業にも活用されており，センター教員も全学教育や専門の授業において出前講義を行った．センター化４年目，全学組織としての姿が少しずつでき始めた．ただこれもセンターと施設担当との歯車がうまくかみあってこその成果である．引き続き，関係各位のご協力をお願い申し上げる．

センターの事務を力強く支えてくれた大崎喜美子事務補佐員が今年度で退職された．感謝の気持ちとともに彼女の前途を祝いたい．

2017年３月
埋蔵文化財調査センター長
文学部教授　木　下　尚　子

Summary

In 1985, Kumamoto University planed a reconstruction of campus. But it was known that campus was designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological operation office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt. In October 2011, the office was reorganized into the Research Center for Buried Cultural Properties, and this center has investigated underground cultural properties.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area) , faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area) ,and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level 18～25m) formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (central ,south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level 12～13m) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is 5 excavations, 44 presence investigations. The main results are the following.In the Kurokamimachi site,4 excavations were conducted at the 1429,1430,1436,1437 investigation spot which is located in the Kurokami south area, in connection with repair work of University Hall. In the each excavation, the bases, which were made of bricks, were found and it turned out that the bases were the bases used for the building of the former Kumamoto Junior College of Technology, built in 1908.

In the Kurokami north area, we got results in 3 surveys. At the 1528 investigation spot, in connection with repair work of the building of the Faculty of Education, the bases, which were made of bricks, were found and it turned out that the bases were the bases used for the kitchen and bathroom of the 5th High School, which were built in 1890. On the surface of the bricks, the mark, which showed the bricks were made in the Kumamoto prison, was often found. And at the 1514 and 1524 investigation spot, where the construction, which constructed the building of the College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies, was performed, many pit-dwellings of Nara-Heian period were found.

In the Honjo site (north area), we conducted the following two investigation spots. At the 1504 investigation spot, ditches, pit-dwellings, and a posthole-type building of the Nara, Heian period were found. And at the 1442 investigation spot, the relics and features of the Kofun period were found.

And in Kyomachidai site which is located in Kyomachi area, 1 excavation was conducted at 1417 investigation spot, relics and features of the Yayoi period were found.

In this fiscal year, we held other exhibitions and events besides the investigations. We'd like to make an effort toward conducting investigations and opening to the public the results of the investigations.

구마모토 대학은 건물의 노후화로 , 1985 년부터 재건축 계획을 세우고 있었으나 , 대학 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다 . 따라서 , 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 하기위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해 , 1994 년 부터 조사를 해 왔다 .2011 년 10 월 조사실은 매장 문화재 조사 센터로 바뀌어서 , 조사를 해 오고 있다 .

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다 . 하나는 공학부・이학부 (남지구) , 교육학부・법학부・문학부 (북지구) 가 자리한 구로카미 (黒髪) 캠퍼스로 , 구로카미마치 (黒髪町) 유적군의 일부에 해당한다 . 이 유적은 다츠타산 (立田山) (표고 151.6m) 기슭의 저위 하안단구 (표고 18～25m) 위에 위치하며 , 고대 고카이 (蚕養) 의 역전으로 추정되고있다 . 또 하나는 의학부・의료단기대학 (중 , 남지구) , 대학부속병원 (북지구) 이 자리한 혼조 (本荘) 캠퍼스이다 . 이 지구는 혼조 (本庄) 유적의 일부이며 , 구로카미마치 유적군과 마찬가지로 시라카와 (白川) 강의 저위 하안단구 (표고 12～13m) 위에 위치한다 . 혼조유적은 구로카미마치 유적군으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다 . 이 유적과 근접한 곳에 오오에 (大江) 유적군과 신야시키 (新屋敷) 유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다 .

2015 년도에 실시된 조사 건수는 , 발굴 조사 5 건 , 입회 조사 44 건이었다 . 주된 조사의 결과는 다음과 같다 .

구로카미마치 유적에서는 구로카미 남지구에 위치하는 1429,1430,1436,1437 조사 지점에서 대학 본부동 개수공사에 따른 4 건의 발굴 조사를 실시했다 . 각지점에서 벽돌기초가 발견되었는데 , 그기초는 1908 년에 세워진 구 구마모토 고등 공업 학교의 기초인 것으로 밝혀졌다 .

구로카미 남지구에서는 3 건의 조사에서 성과를 얻었다 .

1528 조사 지점에서는 교육학부동 개수공사에 따른 조사에서 벽돌기초가 발견되었는데 , 이기초는 1890 년에 건설된 제 5 고 (第五高等中學校) 의 주방과 욕실의 기초인 것으로 밝혀졌다 . 벽돌의 표면에는 구마모토 감옥제조를 나타내는 각인이 많이 발견되어 , 감옥의 죄수가 제 5 고의 벽돌을 만든 사실이 확인되었다

또 1514,1524 조사 지점에서는 나라 (奈良) , 헤이안 (平安) 시대의 수혈주거지가 많이 발견되었다 .

혼조 유적 (북 지구) 에서는 이하의 두 군데를 조사했다 . 1504 조사 지점에서는 나라 , 헤이안 시대의 도랑 , 수혈주거지 , 굴립주 (掘立柱) 건물 터를 발견했다 . 또 1442 조사 지점에서는 고분 (古墳) 시대의 유물과 유구가 발견되었다 . 교마치 지구의 교마치다이 유적에서는 1417 조사 지점의 한 군데를 발굴했는데 , 야요이 (彌生) 시대의 유물과 생활 흔적이 발견되었다 .

2015 년도는 조사이외에 전시회와 견학회를 개최했다 . 앞으로도 조사와 조사 성과의 공개에 전력을 다할 생각이다.

付篇１　2015年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H23.9.22～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務をおこなう．

⑴　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．

⑵　出土した埋蔵文化財の整理，保管及び保存に関すること．

⑶　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．

⑷　その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

⑴　センター長

⑵　専任教員

⑶　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長がおこなう．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長がおこなう．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

⑴　センター長

⑵　センターの専任教員

⑶　文学部及び教育学部から選出された教授又は准教授　各１人

⑷　法学部，大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授　１人

⑸　大学院自然科学研究科から選出された教授又は准教授　２人

⑹　大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院から選出された教授又は准教授　１人

⑺　大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人

⑻　発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はエイズ学研究センターから選出された教授又は准教授　１人

⑼　運営基盤管理部施設管理ユニット長

⑽　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

4　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．
5　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．
（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く．）を審議する．
⑴　センターの業務に関すること．
⑵　センター長候補者の推薦に関すること．
⑶　施設及び予算に関すること．
⑷　その他センターの管理運営に関すること．
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる．
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる．
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する．
（議　事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない．
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる．
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる．
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する．
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める．

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する．
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する．
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考されたものとみなす．
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．

附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する．
附　則（平成27年３月13日規則第94号）
この規則は，平成27年４月１日から施行する．
附　則（平成28年２月５日規則第９号）
この規則は，平成27年４月１日から施行する．
附　則（平成28年３月１日規則第30号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する．

2．2015年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
		山野ケン陽次郎
＜技術補佐員＞（2015年５月～）		吉留　広
＜事務補佐員＞（～2016年１月）		大崎　喜美子
（2016年２月）		城戸　美由紀
＜室内作業員＞（2015年６月～2016年３月）		江口　路
		鬼塚　美枝
		小山　正子
		首藤　優子
		末吉　美紀
		増井　弘子
		井上　裕美

2　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2015.4.1～2017.3.31）
委員	小畑　弘己	（文学部教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	黨　武彦	（教育学部教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	竹島　一希	（大学院社会文化科学研究科准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	渋谷　秀敏	（大学院自然科学研究科教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	宇宿　功市郎	（医学部附属病院教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	米田　哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	本山　敬一	（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	大村谷　昌樹	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	齊藤　正実	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2015.4.1～2017.3.31）
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2015.4.1～2017.3.31）
	松田　光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2012.4.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2011.10.1～）
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.10.15～）

審議事項

2015年６月３日　議題

１）平成27年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について

２）平成27年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について

３）その他

報告

１）平成26年度埋蔵文化財発掘調査結果について

２）平成26年度埋蔵文化財調査センター運営費実績について

３）その他

2015年６月25日　議題

１）来年度以降の埋蔵文化財調査センターの運営（案）について

2016年１月22日　議題

１）埋蔵文化財調査センター規則の一部改正（案）及び埋蔵文化財調査センター長候補者の選考方法一部改正（案）について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2015年度調査・研究活動記録

【調査員】

大坪志子

＜著書＞

・『縄文玉文化の研究－九州ブランドから縄文文化の多様性を探る－』雄山閣.

＜論文＞

・「九州の玦状耳飾」『九州考古学』第90号，pp.21-40，九州考古学会.

・「石製装身具の流通－九州を中心に－」『縄文研究と美術・縄文時代の装身具』第16回関西縄文文化研究会研究集会，pp.25-33.

＜研究発表＞

・「石製装身具の流通－九州を中心に－」『縄文研究と美術・縄文時代の装身具』第16回関西縄文文化研究会研究集会，2015年12月5～6日，関西縄文文化研究会，京都.

＜その他＞

・「岩鼻岩陰遺跡出土の石製装身具の化学分析」『岩鼻岩陰遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書　第89集，pp.197-202，2016年3月31日，大分県教育庁埋蔵文化財センター.

・立命館大学所蔵資料　長野県宮崎遺跡出土石製装身具に関する石材分析調査，2015年12月26～27日.

山野ケン陽次郎

＜論文＞

・「熊本大学構内遺跡の発掘調査－縄文時代後期を対象に－」『第11回日韓新石器時代研究会発表資料集』，pp.106～119，九州縄文研究会・韓国新石器学会.

・「古墳時代における琉球列島との貝交易」『第30回国民文化祭かごしま2015』，pp.40-45，第30回国民文化祭大崎町実行委員会.

＜研究発表＞

・第11回日韓新石器時代研究会　成果発表「熊本大学構内遺跡の発掘調査－縄文時代後期を対象に－」，2015年７月18日，鹿児島県歴史資料センター黎明館.

・2015年度春季研究発表大会　成果発表「熊本大学黒髪南キャンパスの発掘調査－縄文時代から近代まで－」，2015年６月６日，熊本県婦人会館３階集会室.

＜科学研究費＞

・平成27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究（B）「先史時代における太平洋西部島嶼地域の貝類利用の復元研究」　研究代表者.

＜その他＞

・「黒髪南キャンパスの埋蔵文化財の発掘調査と活用」『熊本大学工業会会報』第100号，pp.9-11，　熊本大学工業会.

付篇３　埋蔵文化財調査センター2015年度新聞記事

図10 「熊本大赤れんが校舎基礎発見」の新聞記事
（熊本日日新聞2015年４月17日30面より縮小転載）

図11 「熊本大で出土お宝展示」の新聞記事
（熊本日日新聞2015年11月12日18面より縮小転載）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　22
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　22
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	22
編著者名	木下尚子・松田光太郎・大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留　広
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL.096-342-3832　FAX.096-342-3832
発行年月日	2017年３月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
きょうまちだい 京町台遺跡群 （１４１７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 きょうまち 京町	43 201	238	32° 49′ 05″	130° 42′ 16″	20141105 ～ 20150416	747.90㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１４２９地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 42′ 44″	20150402 ～ 20150907	282.40㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１４３０地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 42′ 44″		195.77㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１４３６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 42′ 44″		60.30㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１４３７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 42′ 44″		102.00㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
京町台（きょうまちだい）遺跡群 （１４１７地点）	集落址	弥生・古代 近世・近代	ピット	弥生土器・土師器・ 陶磁器	
黒髪町（くろかみまち）遺跡群 （１４２９地点）	集落址	古代 近世・近代	住居・溝・ピット 赤煉瓦基礎	土師器・須恵器・陶磁器 赤煉瓦・ガラス・木片	
黒髪町（くろかみまち）遺跡群 （１４３０地点）	集落址	古代 近世・近代	住居・溝・ピット 赤煉瓦基礎	土師器・須恵器・陶磁器 赤煉瓦	
黒髪町（くろかみまち）遺跡群 （１４３６地点）	集落址	古代 近世・近代	住居・ピット 赤煉瓦基礎	土師器・須恵器・陶磁器 赤煉瓦	
黒髪町（くろかみまち）遺跡群 （１４３７地点）	集落址	古代 近世・近代	住居・ピット 赤煉瓦基礎	土師器・須恵器・陶磁器 赤煉瓦・ガラス・鉄器・ 碁石・硯	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報22
—2015年度—

平成29年３月17日　印刷
平成29年３月17日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2017